



EG503

S P R A Y E R

OPERATION MANUAL

※必ずご一読ください。



HATSUTA

Golf Course & Sports Turf Equipment

はじめに

このたびは、ハツタ スプレーヤー EG503 をお買い上げ頂き有難うございます。

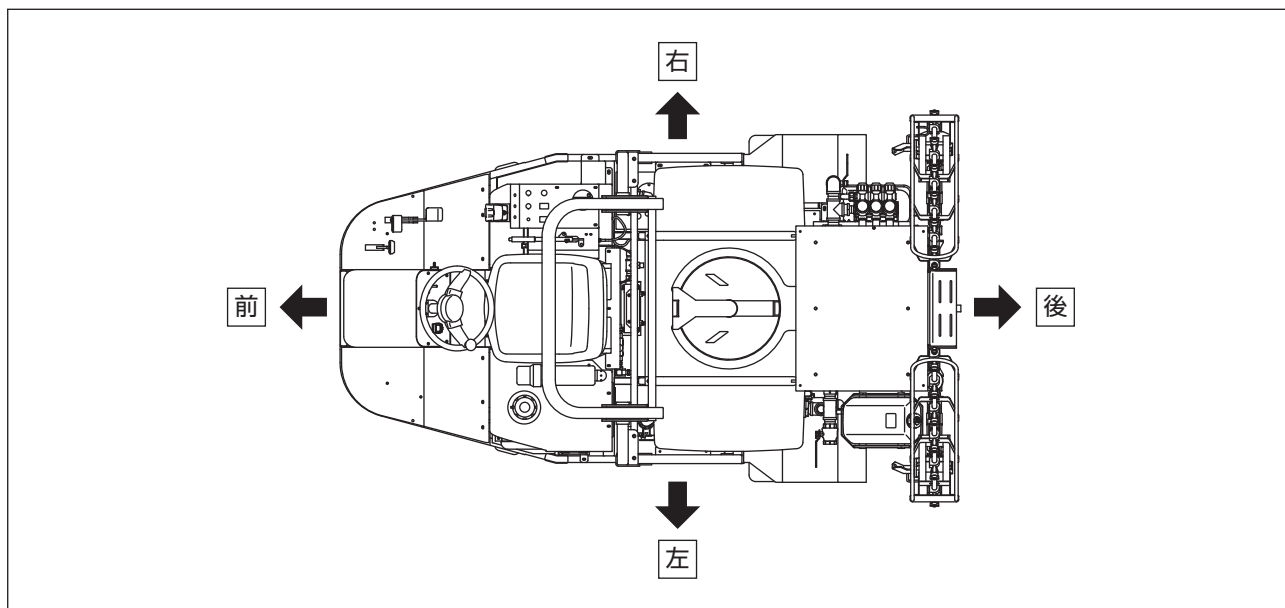
この取扱説明書は EG503 の持つ性能を十分に発揮して頂きますよう、正しい取り扱い方と簡単なお手入れ方法について説明してあります。また、コース管理作業者として最低限必要な心構えなどについても記しております。

安全で快適な作業を行って頂くために、ご使用前に本書と別紙エンジン取扱説明書をよくお読み頂き、正しく機械をご使用ください。

この取扱説明書は、いつでも内容が確認できるように大切に保管してください。また、車両をお譲りになる場合は取扱説明書もあわせてお譲りください。

本書の見方

本書で説明している車両の向きは、運転席に正しく座ったときの方向を示します。



本書で特に留意する事項

この取扱説明書では、守って頂きたい安全のポイントをその都度  のマークを表示し、説明しております。安全のポイントをよく理解して頂き、事故のない安全な作業を行ってください。

危険

死亡につながる恐れが高い事故を未然に防ぐために、必ず守って頂きたい事項を示しています。

警告

死傷につながる恐れが高い事故を未然に防ぐために、必ず守って頂きたい事項を示しています。

注意

負傷または、車両や周辺の物への損傷を防ぐために、必ず守って頂きたい事項を示しています。

重 要

車両を事故・故障を起こさず、長くお使い頂くために知っておいて頂きたい事項を示しています。

目 次

はじめに

本書の見方.....	1
本書で特に留意する事項.....	1

目 次

安全について

一般的な注意事項.....	3
走行時の注意事項.....	3
斜面や作業現場での注意事項.....	4
発進や停車時の注意事項.....	5
作業開始前の注意事項.....	5
散布薬剤の取扱時の注意事項.....	6
散布作業時の注意事項.....	6
作業終了後の注意事項.....	7
点検・整備時の注意事項.....	7
燃料の取扱時の注意事項.....	7
バッテリー取扱時の注意事項.....	7
移送時の注意事項.....	7
警告・注意ステッカー／車両銘板.....	8

各部の名称と取扱い

各部の名称.....	12
運転装置の取扱い.....	15
散布装置の取扱い.....	20

運転操作

エンジンの始動.....	22
発進・停止.....	23
停止・駐車の方法.....	23

散布作業

散布作業の準備.....	24
ブーム散布作業.....	28
手撒き散布作業.....	30
散布作業後の処置.....	33
凍結の予防処置.....	34
その他の使用時の注意.....	35

点 検

始業点検.....	36
定期点検.....	41

定期点検記録簿

長期保管

緊急時の処置

バッテリーが上がったときは.....	53
パンクしたときは.....	53
故障時の車両移動は.....	54

仕 様

外形寸法図.....	56
EG503.....	57

トラブルシューティング

EG503 水量表ブーム散布表（圧損考慮）.....	60
----------------------------	----

参考資料

EG503 WF, BF 散布表（圧損考慮）.....	62
-----------------------------	----

安全について

一般的な注意事項

車両管理責任者のみなさまに知っておいて頂きたい事柄を説明しています。運転者の皆様も作業を始める前に必ず読んで理解し、安全な作業を心がけてください。

使用の前に取扱説明書をよく読む

取扱説明書をよく読み、完全に理解してから作業してください。車両をお譲りなる場合は、取扱説明書も一緒に譲渡してください。

作業は計画的に行う

効率よく作業が進むように、計画的に行ってください。修理地や危険箇所などを十分に把握しておいてください。

飲酒や薬物（眠気を誘発する薬を含む）を摂取している人に運転をさせない

アルコールチェックなどを作業前に行い、該当者には運転をさせないでください。重大事故の原因になります。

作業者を選定する

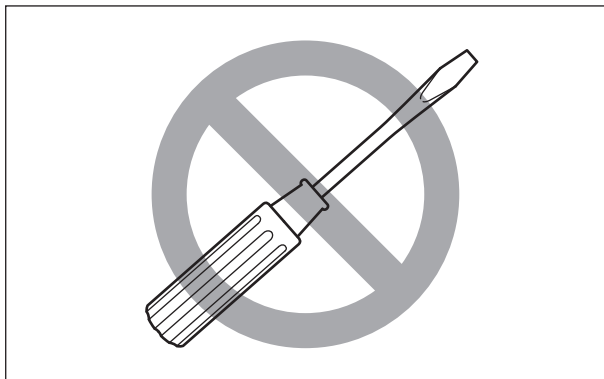
体調の悪い人に運転をさせないでください。

連続して長時間作業を行わない

疲労より転落や接触による人身事故を起こす原因になります。

改造や分解をしない

メーカーの許可のない改造は、車両の破損や事故の原因になります。また、保証の対象外になります。

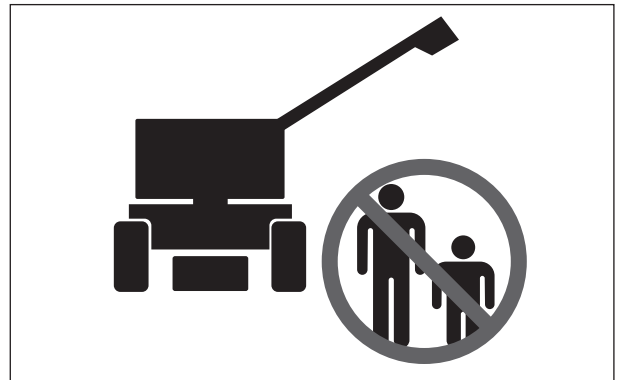


走行時の注意事項

車両の運転をする前に、EG503 に関する安全運転、危険な運転などをよく理解してください。理解しないとあなたが被害者に、もしくは加害者になります。

乗車定員を守る

車両の乗車定員は一人です。二人以上乗車しないでください。車両からの転落や、車両が横転する恐れがあります。



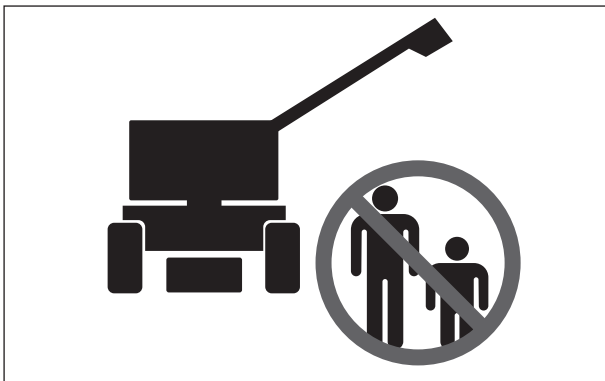
危険な運転はしない

- 運転席以外で運転しないでください。ハンドル操作やブレーキ操作、作業操作を誤り、人身事故や死亡事故につながる恐れがあります。
- 動いている車両への飛び乗りや飛び降りを行わないでください。車両からの転落や下敷きになったりして、重大な怪我や死亡事故につながる恐れがあります。



走行ルールを必ず守る

- 作業区域内は、指定された速度で走行してください。速度超過の走行はカーブや下り坂で車両が横転し、重大な事故や死亡事故につながる恐れがあります。
- カート道や管理道路、歩道を横断するときは、最徐行してください。また、見通しの悪い場所では手前で一時停止し、左右の安全確認を行ってください。安全確認を怠ると重大な事故の原因になります。
- 車両を後進させるときは、目視で人や動物の有無、下方や後方の安全を確認してください。確認を怠ると重大な事故の原因になります。
- コース間を移動するときはブームをあげて走行してください。ブームを下げた状態で走行すると、作業装置が法面、障害物に接触し装置の破損や車両の横転等、重大な事故や死亡事故につながる恐れがあります。



走行時や走行中は正しい運転姿勢をとる

- 車両での走行時や作業時は、常に安全運転を心がけてください。ROPS 装備車両（オプション）は、装備されているシートベルトを必ず着用してください。シートベルトを着用を怠った場合、急ブレーキや横転時に車外に放り出され、重大な事故や死亡事故につながる恐れがあります。
- 走行中や作業中にシートの位置調整をしないでください。運転操作を誤り、重大な事故の原因になります。シートの調整は必ず作業前に平坦な場所で行ってください。
- 走行中や作業中はスマートフォンを見るなど、ハンドルから手を離したりしないでください。操作が遅れたり、誤ったりして重大な事故の原因になります。

公道や公道とみなされる道路で使用しない

本車両は一般道や高速道路の走行はできません。一般道や高速道路を走行すると、法的処分を受けます。

障害物や路面状況に注意する

移動用道路にある障害物や路面状況に十分に注意して走行してください。縁石の角、側溝の蓋の角、鋭利な石等でウレタンタイヤを破損する恐れがあります。

斜面や作業現場での注意事項

安全なルートを設定する

- 作業区域内の危険箇所（斜面、軟弱地、崖、穴など）を把握し、危険箇所や工事中の箇所を避けて作業をしてください。また、安全なルートをあらかじめ設定しておいてください。
- 作業地では決められたルートを走行し、通ったことのない場所への侵入はしないでください。見えない凹凸や障害物により車両の突き上げなどにより、装置の破損や車両が横転や転落する恐れがあります。
- 木が密集している場所に近づかないでください。ブームが木に接触し、装置の破損や車両が横転する恐れがあります。

傾斜に注意する

- 傾斜が 15 度以上ある斜面、路面に侵入しないでください。また、8 度以上のある斜面を横切らないでください。車両の滑落、横転の恐れがあります。
- 斜面で急旋回、急停止はしないでください。車両がバランスを崩して、横転・転落の原因になります。旋回、停止は平坦な場所で行ってください。

発進や停車時の注意事項

エンジンが掛かっているときは

- エンジンが始動状態で乗車する場合は、ペダルや運転装置に誤って触れないように注意してください。誤操作により車両の暴走の原因になります。
- エンジンをかけたまま運転席から離れないでください。車両が暴走する恐れがあります。
- シートに座り、パーキングブレーキが「ON」の位置、走行ペダルが「中立」位置でエンジンを始動することができます。
- シートに着座せずに、ペダルの操作、パーキングブレーキを解除するとエンジンは停止します。
- エンジン始動後、ペダルが「中立」、パーキングブレーキ作動であれば、シートから離れてもエンジンは停止しません。
- 急停車や急発進はしないでください。車両やウレタンの損傷、あるいは亀裂の原因になります。
- エンジンが高回転のときにエンジンを停止しないでください。シリンダー内で燃料が燃焼されず、マフラー内で爆発（アフターファイヤー）する場合があります。

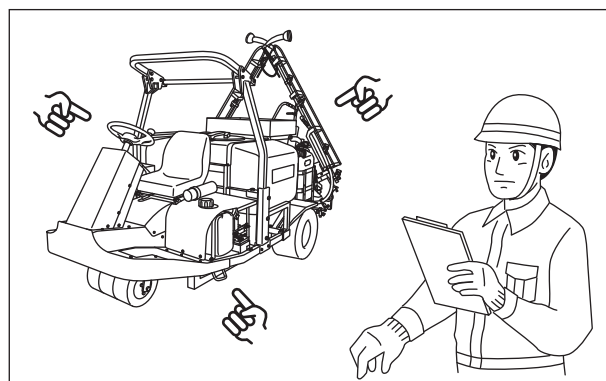
停車するときは平坦な場所に止める

- 傾斜地で駐車しないでください。万一、パーキングブレーキが故障した場合は、車両が暴走する恐れがあります。止むをえず傾斜地に駐車するときは輪止めをしてください。
- 駐車するときは、平坦な場所でパーキングブレーキをかけ、エンジンを停止してキーを抜きます。状況に応じて輪止めをします。
※ 走行ペダルが中立で、パーキングブレーキをかけないでシートから離れると安全装置が作動してエンジンを停止します。

作業開始前の注意事項

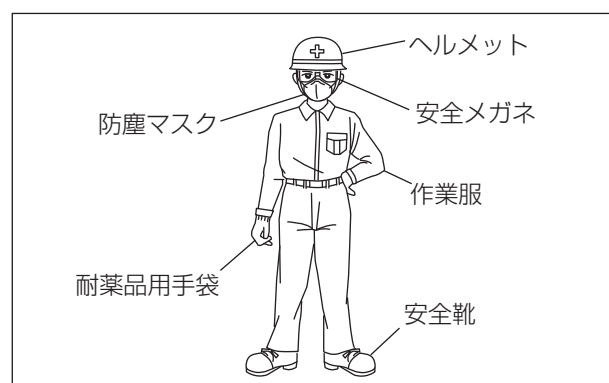
作業前に必ず点検する

- 始業点検を確実に実施してください。
- 前日の車両の不具合、故障などが修理されていない場合は作業をしないでください。
- 安全装置（シートベルト、ROPS）の作動に不具合がないかを確認してください。安全装置に不具合、故障がある場合、修理がすむまで作業をしないでください。また、安全装置を取外したり、改造しないでください。



作業は安全な服装で行う

指定された作業に応じた服装で作業を行ってください。安全靴・長ズボン・ヘルメット・安全メガネ・防塵マスク・耐薬品用手袋を着用し、回転部に巻き込まれないように長い髪はまとめ、アクセサリー等が垂れ下がったりしないようにしてください。



作業現場に人や動物がいない事を確認する

作業範囲内に一般客や子供、動物を近付けないようにしてください。

散布薬剤の取扱時の注意事項

散布薬剤を取扱うときは

- 散布薬剤を取扱う時は、洗浄用の真水を用意しておいてください。
- 取扱う薬剤の毒性、特性について十分に理解しておいてください。
- 車両の薬品箱や車両に薬剤などこぼしたときはウェスなどで取り除いてください。薬剤による健康被害、車両の錆や破損の原因となります。
- 薬剤を取扱うときは、安全メガネや防毒マスク、耐薬品手袋を着用し、作業着の袖や裾じまいししてください。

誤って散布薬剤に触れたときは

- 散布薬剤を誤飲した場合はすぐに吐き出し、速やかに医師の診察を受けてください。
- 散布薬剤が目に入った場合はすぐに真水で洗い流し、医師の診断を受けてください。失明や充血する恐れがあります。
- 散布薬剤が体に付着した場合は、すぐに真水で洗い流してください。薬害、皮膚への障害、アナフィラキシーショックの恐れがあります。
- 散布薬剤を攪拌する時は、タンクの蓋をしてください。開けたまま攪拌すると薬剤が飛び散って健康被害の原因になります。

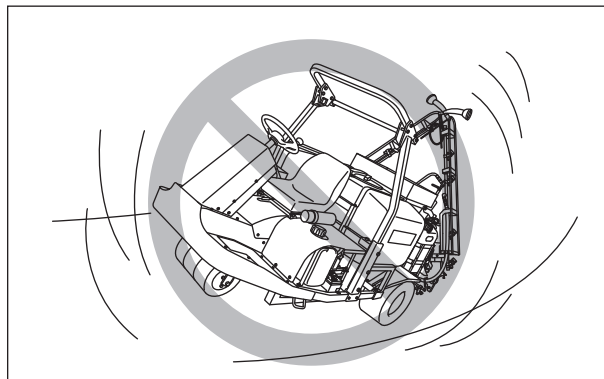
散布作業時の注意事項

作業をするときは

- 作業は低速で行い安全で効率の良い作業をこころがけてください。高速で作業を行うと作業効率が低下するばかりではなく、車両の転落、横転の恐れがあります。
- スロットル全開の状態ではポンプスイッチを ON/OFF しないでください。油圧装置への負荷が大きくなりポンプの劣化、損傷の原因になります。

傾斜 8 度以上の斜面を横切らない

作業するルートは傾斜 8 度以上の斜面を横切らないように設定してください。8 度以上の斜面での作業は、手撒き散布などで対応してください。



障害物のある場所での作業は十分注意する

- 木などの障害物がある場所では、ブームを上げて作業してください。ブームが接触して破損の原因になります。
- 低い木々や障害物がある場所では、十分に注意して作業を行ってください。ブームが当たり破損の原因となります。

巻き取りボタン操作は下記の事項に注意する

- ホースリールに手や指を巻き込まれないように注意してください。
- 巻き取りボタンでホースを最後まで巻き取らないでください。手が巻き込まれたり、ノズルが車両に当たり破損する恐れがあります。最後は手でホースを巻き取ってください。
- ホースの巻き取りするときは周囲に人がいないことを確認してください。巻取り中にホースが暴れて、人身事故の原因になります。
- タンクに水や薬剤が入っていない状態でポンプを回さないでください。セントリーヒューガルポンプを空転させると損傷の原因になります。
- 巻取メインスイッチは使用後は OFF にしてください。バッテリー上がりや誤作動の原因になります。

車両がオイル漏れしているときは

作業中にオイル漏れを確認したときは作業を中止し、直ちに芝がない場所へ移動してください。芝を傷めたり、火災の原因になります。また大きな事故の原因になります。修理が完了するまで使用しないでください。

作業終了後の注意事項

- タンク内の劣化や損傷の防止のため、作業後はタンク内部を真水で洗浄してください。また、真水で撒布して、噴管の中まで清掃してください。
- 車両の劣化や破損を防止のため、付着した散布薬剤が残らないように車体を真水で洗浄してください。
- 作業中に振動、異音や不具合のあった箇所は修理をしてください。また、修理が終わるまで作業を行わないでください。

点検・整備時の注意事項

- 排気ガスは有毒です。閉め切った屋内でエンジンをかけたまま、点検や修理を行わないでください。排気ガスによる中毒になる恐れがあります。
- 点検時に高温部に触れないように注意してください。車両停止直後は、エンジンやマフラー、ポンプが高温になっています。点検はエンジンやマフラー、ポンプが冷えてから行ってください。
- 用途に合った工具を使用してください。工具を用途外の方法で使用すると、車両の破損またはケガをする恐れがあります。
- 点検は清潔で整頓された場所で行ってください。また、こぼれた油脂類はウェスなどでよく拭き取ってください。火災の原因になります。

燃料の取扱時の注意事項

- こぼれた燃料はウェスなどきれいに拭き取ってください。こぼれた燃料に引火して火災の原因になります。
- 給油中は、禁煙です。引火して爆発、火災の原因になります。
- 給油後は燃料キャップは確実に締めてください。閉め忘れやキャップの緩みから燃料に引火し、爆発や火災の原因になります。
- 給油するときはエンジンを停止してください。エンジンを始動したまま給油すると、引火し、爆発や火災の原因になります。
- 燃料を保管するときは、専用の容器で保管してください。近くに裸火のない、雨水がかからない冷暗な場所で保管してください。

- 指定された燃料（無鉛レギュラーガソリン オクタン価 86 以上）を使用してください。指定外の燃料を使用すると、エンジンの不調や破損の原因になります。
- 作業中に遠くで雷鳴が聞こえたり、雷雲が近づいている場合は、車両から離れて安全な場所に避難してください。
- ブームや車両が電線などに触れないようにしてください。車両の火災、感電の原因になります。
- 大雨が降った後は、斜面や崖、バンカーに近付かないでください。縁などが軟弱になっており、転落や横転の恐れがあります。また、大雨が降った直後は思わぬ事故を招く可能性があるため、使用を控えるようにしてください。

バッテリー取扱時の注意事項

- バッテリーを脱着するときは、マイナス端子から取り外し、取り付けはプラス端子から行ってください。
- バッテリー充電時に有毒ガスが発生することがあります。バッテリーの充電は必ず風通しの良い場所で行ってください。
- 充電は充電器の取扱説明書に従い、正しい手順で行ってください。誤った充電は、バッテリーの発火や損傷、爆発の原因になります。

移送時の注意事項

- トラックに載せるときは、車両に対して十分に強度のある歩み板を使用してください。
- トラックに積載しての移送は、車両が落下したりずれたりしないように確実に固定してください。
- 車両の積載は、荷台や積載荷重に十分な余裕のあるトラックを使用してください。

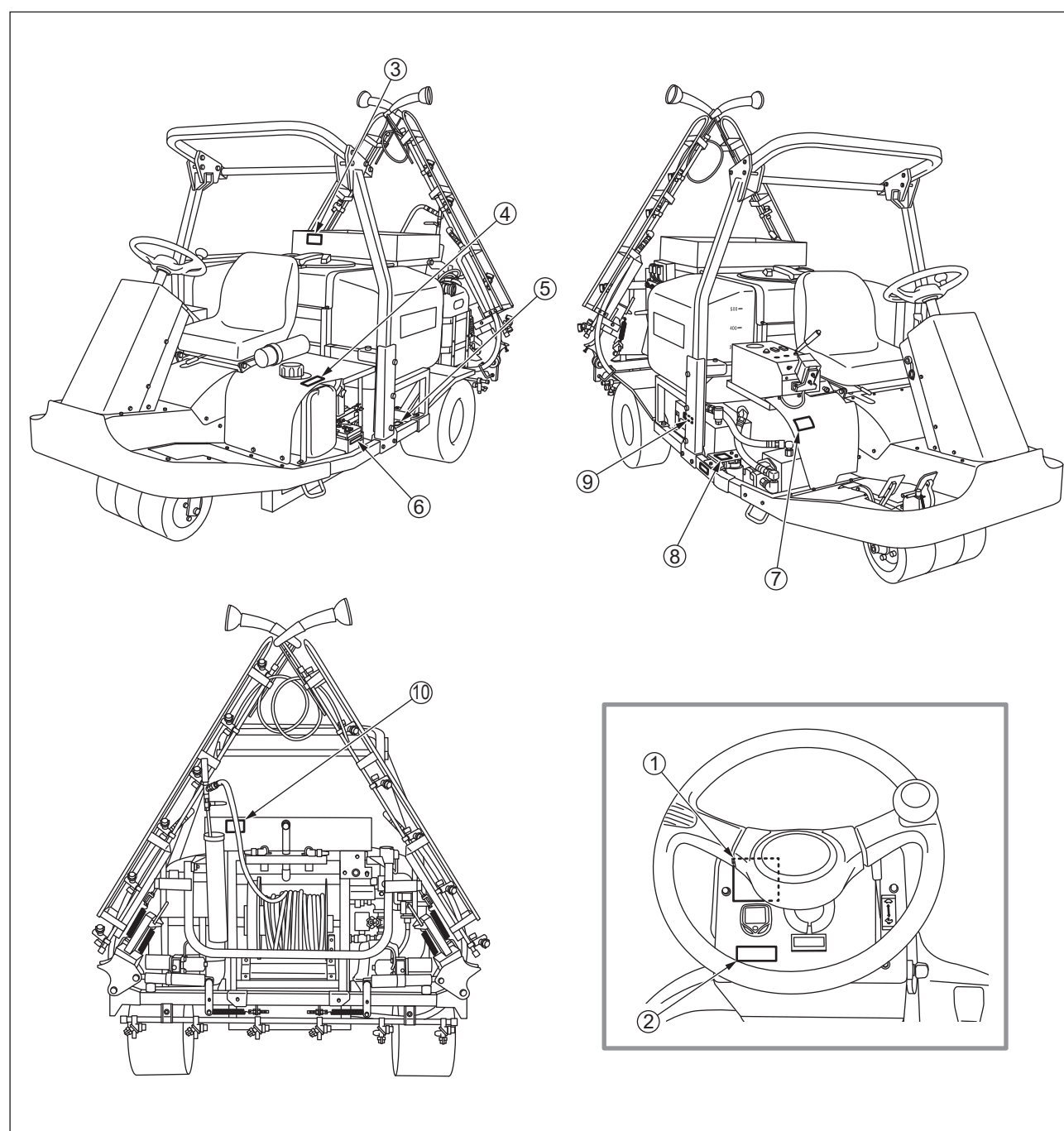
警告・注意ステッカー／車両銘板

本車両には警告ステッカー及び指示ステッカーが貼付けられています。作業をするときは、警告、指示レベルの指示にしたがってください。ラベルは常に読める状態にしておいてください。

重 要

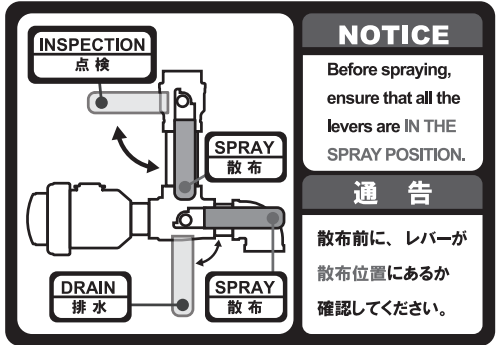
- 車両に貼り付けてあるステッカーが破損、紛失、劣化により読めなくなった場合は、新しいステッカーに交換してください。
- 必要なステッカーはパーツリストに記載された部品番号で弊社販売代理店に注文してください。
- ラベルが貼付けられている部品を交換するときは、ラベルも一緒に購入先に発注してください。

警告・注意ステッカー貼付け位置



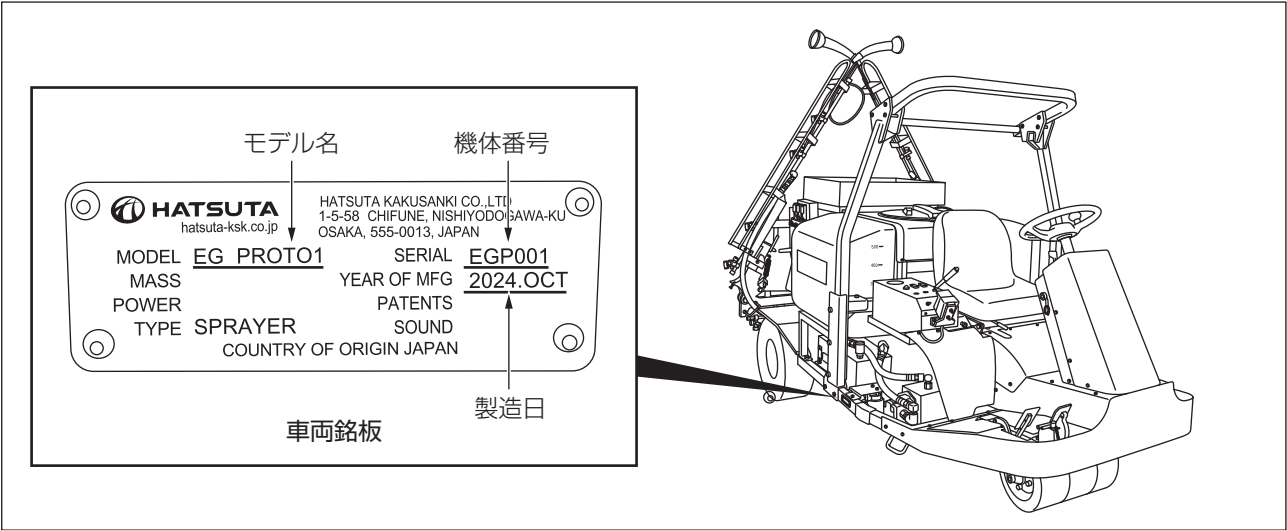
警告・注意ステッカーの説明

番号	ラベル	説 明	
①		危険	二人乗り禁止 車両に2人以上乗らないでください。 運転席以外に乗らないでください。
		警告	薬剤吸引注意／風上から作業 薬剤による中毒に注意してください。 薬剤の取扱いは風上側から行ってください。 傾斜 15° 以上走行禁止 15° 以上の傾斜地を走行しないでください。 斜面横断 8° 以上走行禁止 傾斜 8° 以上の斜面を走行しないでください。
		注意	周囲安全確認 走行中、作業中は周囲の安全を十分に確認してください。 保護具着用：メガネ、マスク 安全保護具（安全めがね、マスク）を着用してください。 使用前に説明書を必読 使用する前に取扱説明書をよく読み、十分に理解してください。
②		注意	始動する前に「散布」にセット 散布を始動する前に、必ず排水用コックを「散布」位置にセットしてください。
③		危険	タンク内立入禁止 タンク内に入らないでください。 タンク内に物を入れないでください。
		警告	薬品注意／接触禁止 薬剤に素手で触れないでください。
		注意	保護具を着用する 安全メガネ、マスク、手袋など保護具を着用してください。 給水時はフタを開ける事 給水中にフタをロックしないでください。 溢水時はフタを締めず少し排水 タンク上面以上に水が入った状態でタンクのフタを閉めないでください。

番号	ラベル		説 明
④		危険	火気厳禁 火気を近付けないでください。 指定燃料 ガソリン以外の燃料は使用しないでください。
⑤		注意	散布前に、レバーが散布位置にあるかを確認してください。
⑥		警告	火気厳禁／液付着注意 火気を近付けないでください。 バッテリー液に素手で触れないでください。
⑦		警告	排気熱注意：離れてください マフラーに触れないように注意してください。 高温注意：触れるな 高温部に触れないように注意してください。

番号	ラベル		説 明
⑧	 ⚠ WARNING / 警告 High pressure: No hands 高圧油注意 手で触るな	警告	高圧油注意：手で触るな 高圧油に触れないでください。
		注意	高温注意：触れるな ポンプなど高温部に触れないように注意してください。
⑨	 i NOTICE / 注 記 Hydraulic oil/ 指定油 ISO VG46	注意	指定油 ISO VG46 必ず指定油をご使用ください。
⑩	 ⚠ CAUTION / 注 意 Rotating Parts 回転部注意	警告	昇降範囲内：立入禁止 ブームの昇降範囲内に立ち入らないでください。
		注意	回転部注意 リールなどの回転部に手、指を巻き込まれない注意してください。

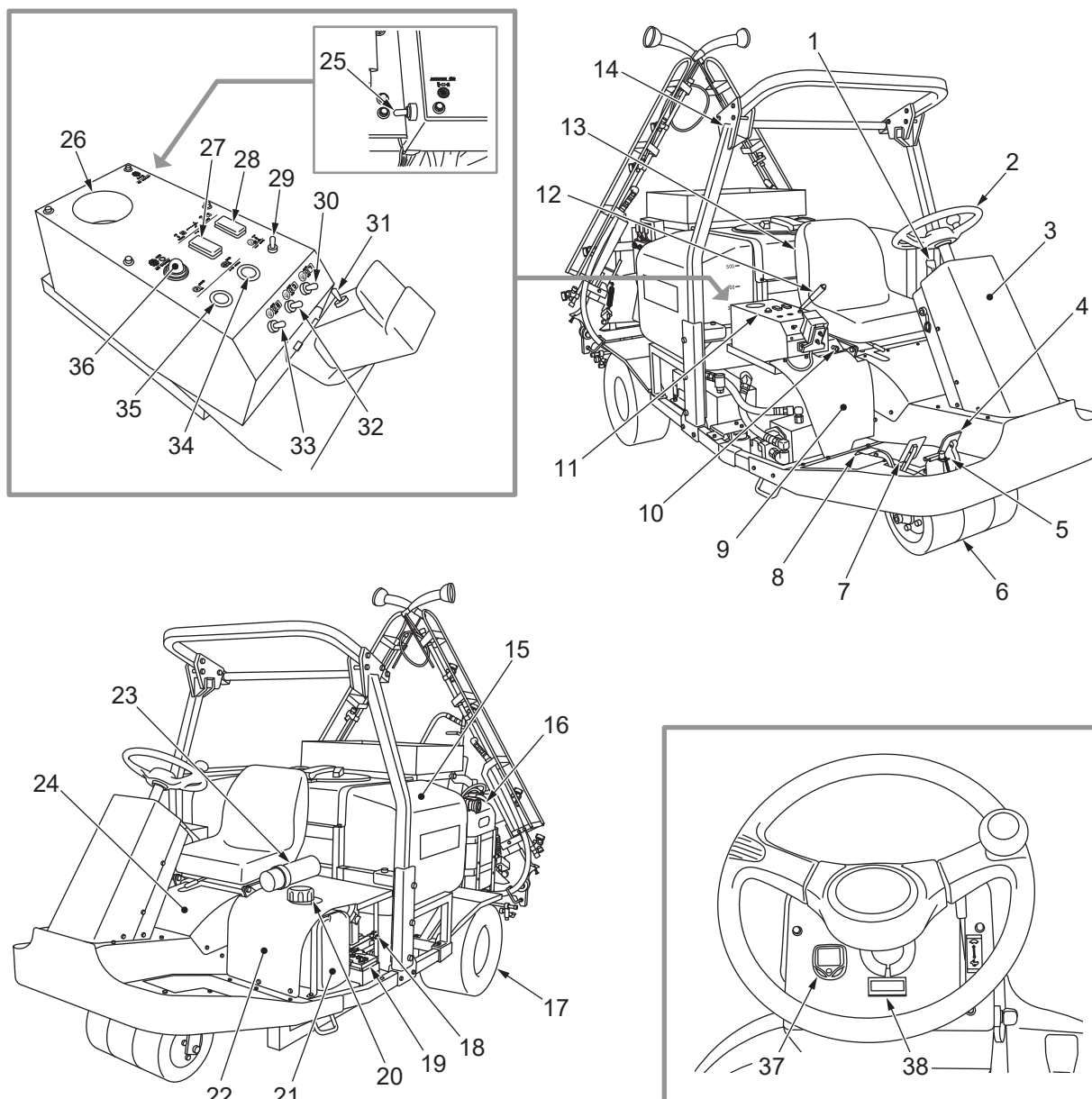
車両銘板貼り付け位置



各部の名称と取扱い

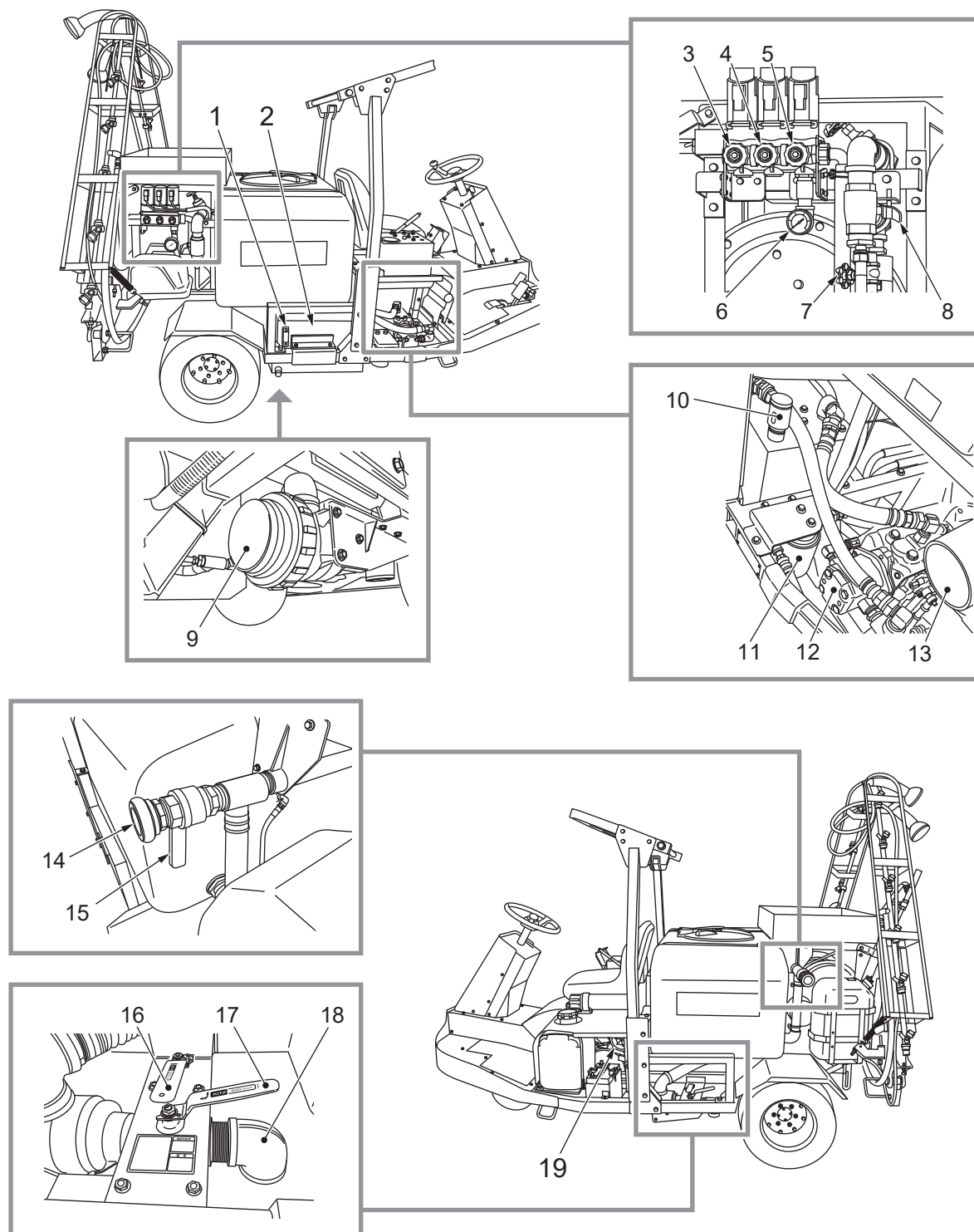
各部の名称

前 面



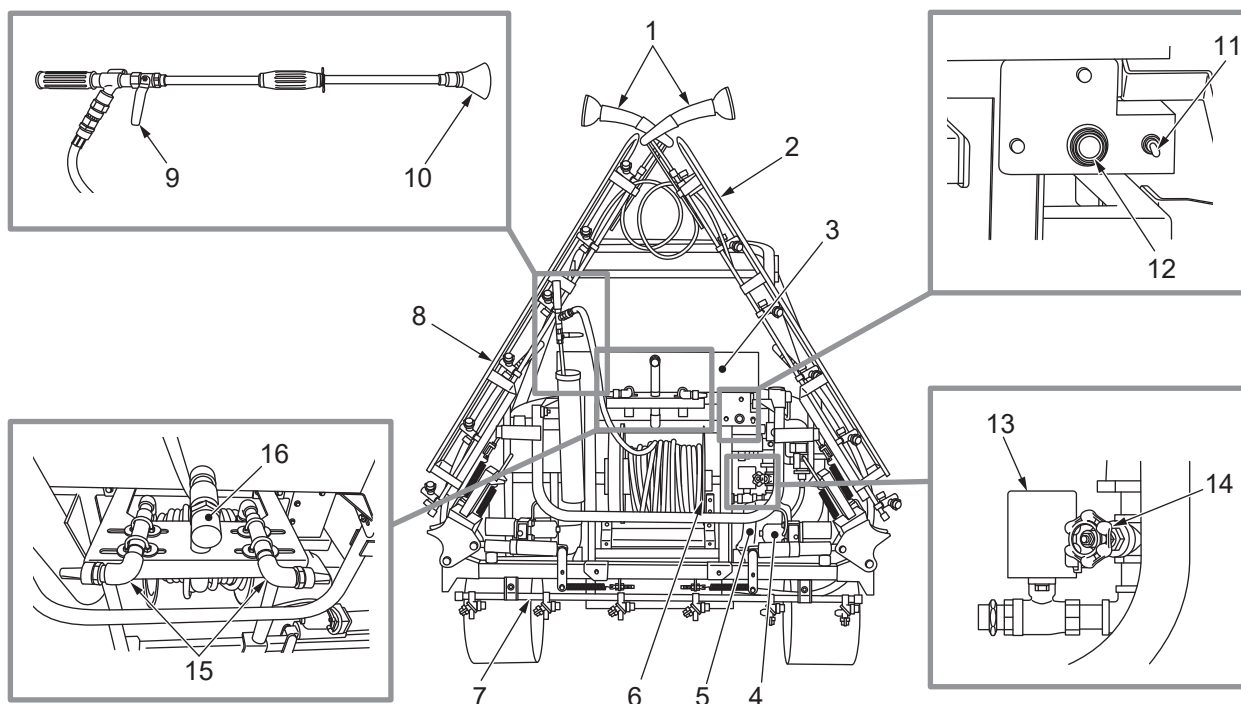
- | | | | |
|-----------------|---------------------------|------------------|----------------------------|
| 1. スロットルレバー | 11. スイッチボックス | 20. 燃料給油キャップ | 30. ブーム散布スイッチ(左) |
| 2. ハンドル | 12. パーキングレバー | 21. 燃料タンク | 31. ターフマーカースイッチ
(オプション) |
| 3. ハンドルポスト | 13. シート | 22. 左カバー | 32. ブーム散布スイッチ(中) |
| 4. ブレーキペダル | 14. Rops (オプション) | 23. 書類ケース | 33. ブーム散布スイッチ(右) |
| 5. 速度固定ボルト | 15. タンク (500ℓ) | 24. エンジンカバー | 34. ポンプ ON スイッチ |
| 6. 前輪 (ウレタン) | 16. ターフマーカータンク
(オプション) | 25. 攪拌スイッチ | 35. ポンプ OFF スイッチ |
| 7. 走行ペダル (アクセル) | 17. 後輪 | 26. ドリンクフォルダ | 36. 攪拌表示灯 |
| 8. 走行ペダル (バック) | 18. 燃料コック | 27. ブーム上下スイッチ(右) | 37. 速度計 |
| 9. 右カバー | 19. バッテリー | 28. ブーム上下スイッチ(左) | 38. 回転計 |
| 10. チョークレバー | | 29. メインスイッチ | |

側面（左・右）



- | | | |
|------------------------|-----------------|-----------------|
| 1. オイルゲージ | 7. 圧力計 | 14. 給水口 (1 1/2) |
| 2. 油圧タンク | 8. ブーム／手撒き切換レバー | 15. 給水用ボールコック |
| 3. 水量調整バルブ（boom右） | 9. 中間ストレーナー | 16. メンテナンス用コック |
| 4. 水量調整バルブ（boom中） | 10. 油圧オイルタンク給油口 | 17. 排水用コック |
| 5. 水量調整バルブ（boom左） | 11. 油圧オイルフィルター | 18. 排水口 |
| 6. 水量調整スリースバルブ（メインバルブ） | 12. 油圧ポンプ | 19. エアークリーナー |
| | 13. マフラー | |

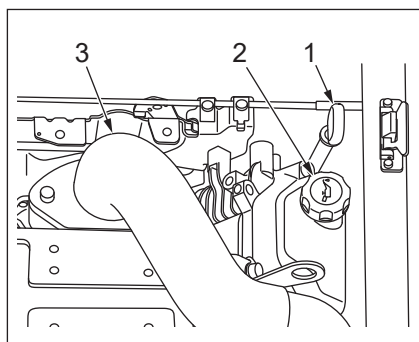
後面



- | | | |
|--------------------------|-------------------|--------------------------------|
| 1. マーカーノズル (オプション) | 7. ブーム (中) | 13. 電動バルブ
(ジェットアジテーター用) |
| 2. ブーム (右) | 8. ブーム (左) | 14. 水量調整スリースバルブ |
| 3. 薬品箱 | 9. スーパーフラットノズルコック | 15. ブームレスフラットファンノズル
(オプション) |
| 4. ブームシリンダー | 10. ノズルヘッド (交換可) | 16. フラットファンノズル
(オプション) |
| 5. コンプレッサー
(ターフマーカー用) | 11. ホース巻取電源スイッチ | |
| 6. ホースリール | 12. ホース巻取スイッチ | |

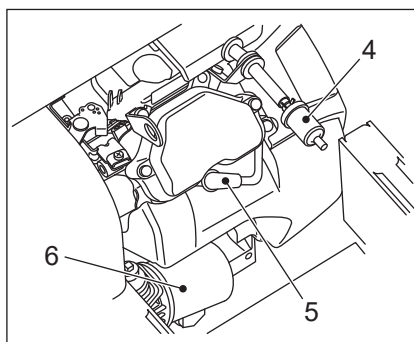
カバー内部

座席台内部



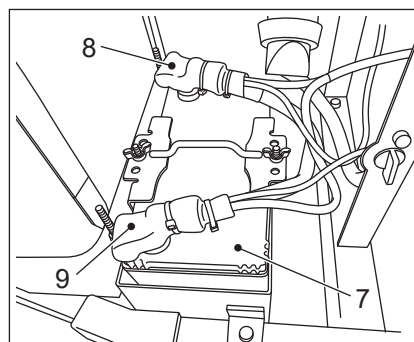
1. エンジンオイルゲージ
2. エンジンオイル注油口
3. エキゾーストパイプ

エンジンルーム内部



4. 燃料フィルター
5. 点火プラグキャップ
6. エンジンオイルフィルター

バッテリー下部

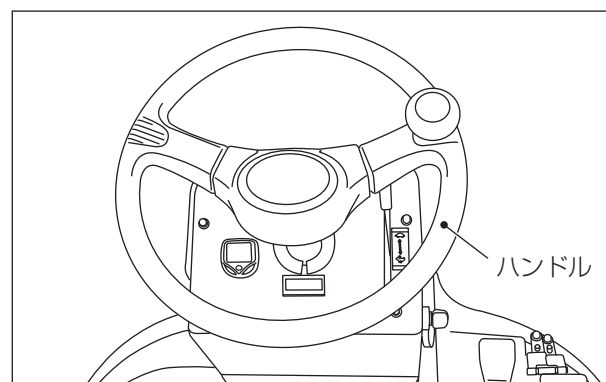


7. バッテリー
8. バッテリーキャップ (赤)
9. バッテリーキャップ (黒)

運転装置の取扱い

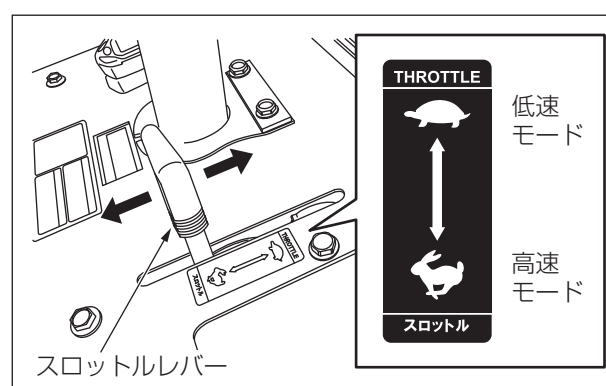
ハンドル

ハンドルを右に回すと車両が右に旋回し左に回すと、左に旋回します。



スロットルレバー

スロットルレバーをカメマーク側にする则低速モード（エンジンの回転が低速）に、ウサギマーク側にする则高速モード（エンジンの回転が高速）になります。

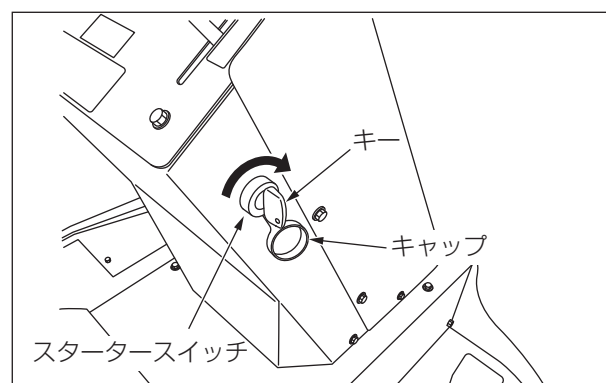


スタータースイッチ

⚠ 注意

- シートに座らずにエンジンを始動すると、安全装置が作動してエンジンを始動することができません。
- スターターキーを連続して 5 秒以上回さないでください。バッテリー上がりやソレノイドの破損の原因になります。

スタータースイッチにキーを差し込み、右に回すと「ON」位置になり、さらに回すとエンジンが始動します。「ON」位置から左に回すと「OFF」位置になり、エンジンが停止します。キーの抜き差しは「OFF」位置で行います。



重 要

キーを抜いた後は、キャップをしてください。雨水が入り故障の原因になります。

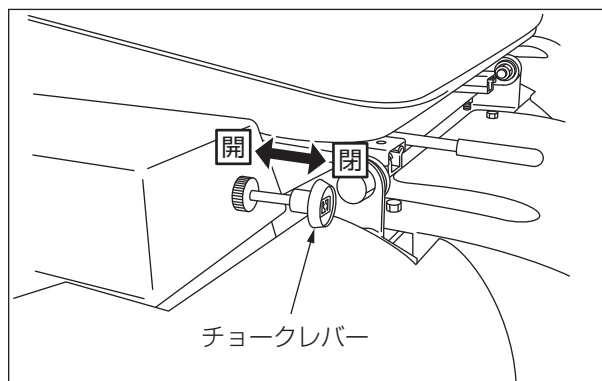
各部の名称と取扱い

チョークレバー

外気温が低くエンジンがかかりにくいときは、チョークレバーを引いてチョークを「閉」にします。エンジンが温まるとレバーを押し込んで「開」にします。

重 要

チョークを「閉」にしてアクセルをあおると、点火プラグに燃料がかぶり、エンジンが始動しない場合があります。しばらく時間をおいてからエンジンを始動してください。

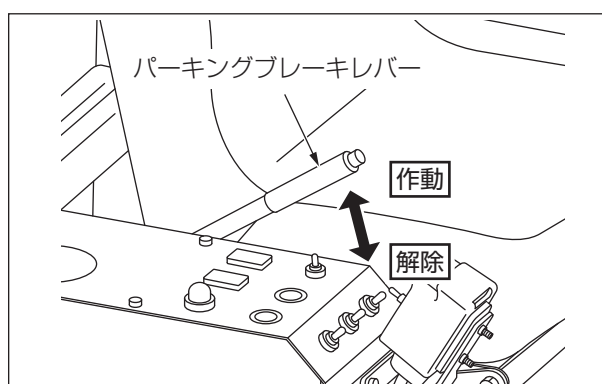


パーキングブレーキレバー

⚠ 注意

車両を停止するときにパーキングブレーキを使用しないでください。パーキングブレーキの故障の原因になります。

パーキングブレーキレバーを上にとくと、パーキングブレーキが作動します。解除するときはレバーの先端のボタンを押してレバーを下げます。



走行ペダル（アクセルペダル）

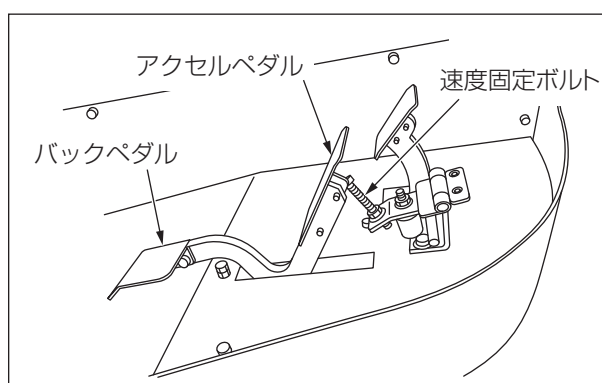
アクセルペダルを踏込むと車両が前進します。アクセルペダルから足を離すと停止します。

走行ペダル（バックペダル）

⚠ 注意

前進、後進を切り換えるときは車両を停止してから行ってください。

バックペダルを踏込むと車両が後進します。

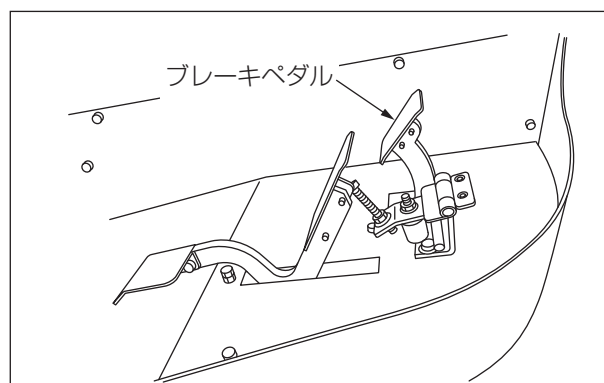


速度固定ボルト

車両固定ボルトで車両の最高速度を制限することができます。固定するボルトにより制限速度を変更します。一定のスピードで希望の撒布量をムラなく撒布することができます。

ブレーキペダル

ブレーキペダルペダルを踏込むと車両が停止します。

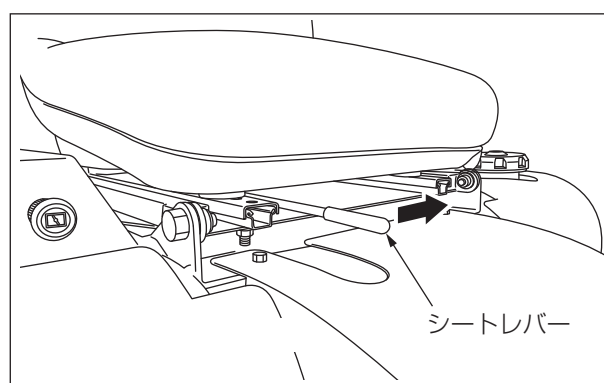


シートレバー

⚠ 注意

シートの位置を調整する時は、車両を停止してください。重大な事故の原因になります。

シートレバーを左にして、両手でシートを前後に動かしてシート位置を調整します。シート位置が決まったら、レバーから手を離して固定します。



回転計

エンジンを始動するとエンジンの回転数を表示します。

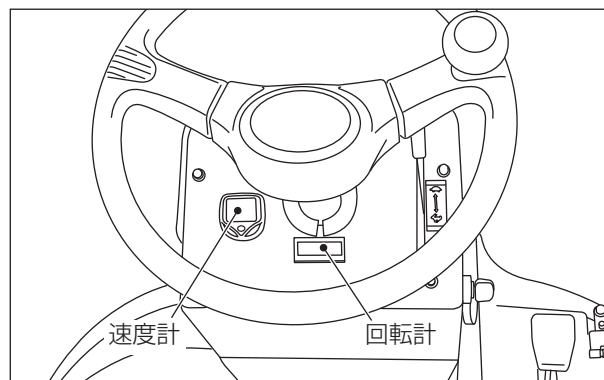
エンジンを停止すると積算時間が表示されます。

速度計

- 車両の速度を表示します。
- タイヤ周長と走行距離を設定すると、メンテナンス時期を知らせてくれます。

重 要

速度は、タイヤ周長とタイヤの回転数から計算された値を表示しています。電池交換した場合は再設定してください。



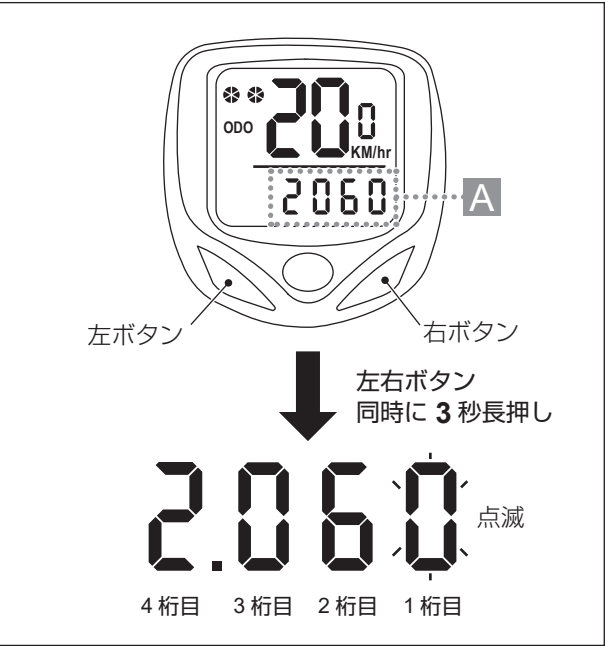
各部の名称と取扱い

タイヤ周長設定のしかた

速度計のタイヤ周長は、「左ボタン」「右ボタン」により設定することができます。

例) タイヤ周長（915mm）を入力する場合

- 1. 左ボタン、右ボタンを 3 秒間同時に長押しすると、モニターの **A** 部分に「2060」が表示されます。
- 2. 1 桁目が点滅状態になるので、右ボタンを押して「0 → 5」に設定します。（数値はボタンを押すごとに 1 ずつ増えます。）
- 3. 1 桁目の設定して左ボタンを押すと、2 桁目の数値が点滅状態になります。点滅した数値を右ボタンで「6 → 1」に変更してください。同様の手順で 3、4 桁目の数値を設定します。

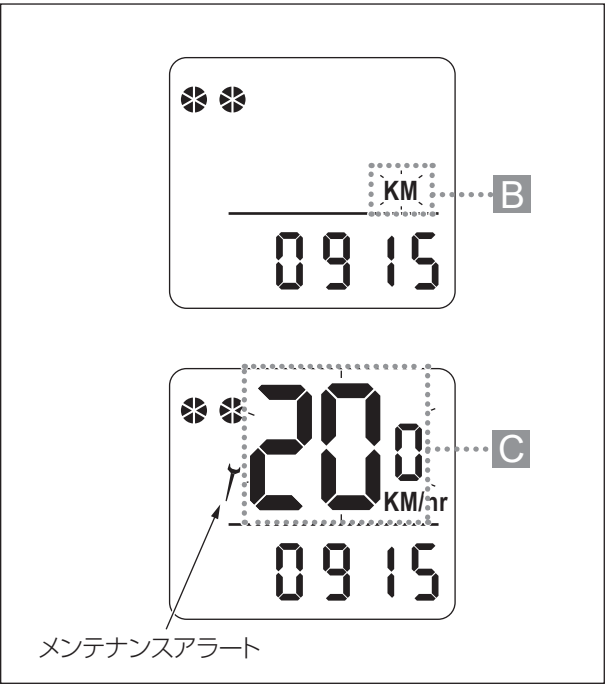


ボタン	押し方	操 作
左ボタン+右ボタン	同時に長押し	表示をアクティブにする。
右ボタン	短押し	・ ボタンを押すごとに数字が1ずつ増える。 ・ 選択する。
左ボタン		決定する。

走行距離設定のしかた

例) メンテナンス走行距離（20KM）と設定する場合

- 1. タイヤ周長の 4 桁目までの設定が完了するとモニターの **B** 部分に「KM（キロメートル）」、もしくは「M（マイル）」が表示されます。右ボタン押すごとに単位が「KM → M」に切り替わるので、「KM」を選択してください。
- 2. 左ボタンを押すと、モニターの **C** 部分が点滅状態になります。
右ボタンを押すごとに、数値が「200 → 400 → 600 → 200」と切り替わるので、設定したい数値で左ボタンを押して決定します。
- 3. 走行距離が設定した数値に達した場合、メンテナンスアラートが表示されるので、交換、点検時期の目安にしてください。
メンテナンスアラームをリセットするときは右ボタンを 3 秒長押しします。



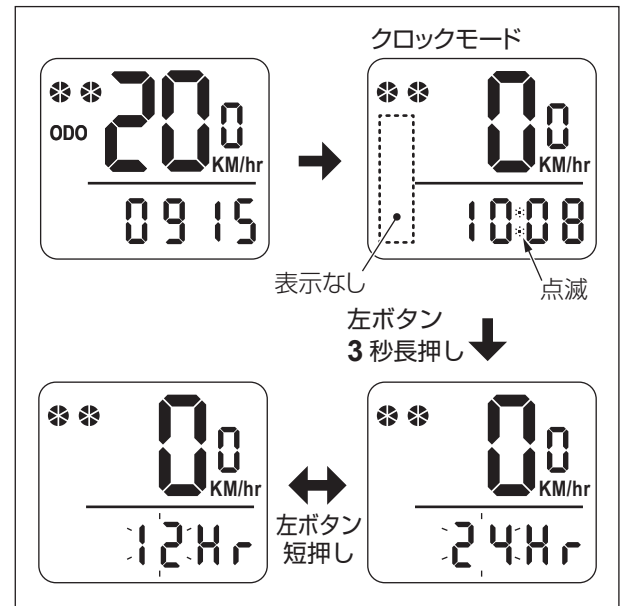
重 要
工場出荷時は、メンテナンスアラームは 400KM に設定されています。

時計設定のしかた

1. 右ボタンを数回押し、クロックモード表示に切り替えます。
2. クロックモードで左ボタンを3秒間押すと、「24Hr（24 時間表記）」「12Hr（12 時間表記）」の選択表示画面になります。
左ボタンを押すごとに時間表記が「24」↔「12」に切り替わります。右ボタンを押し、表記を決定してください。

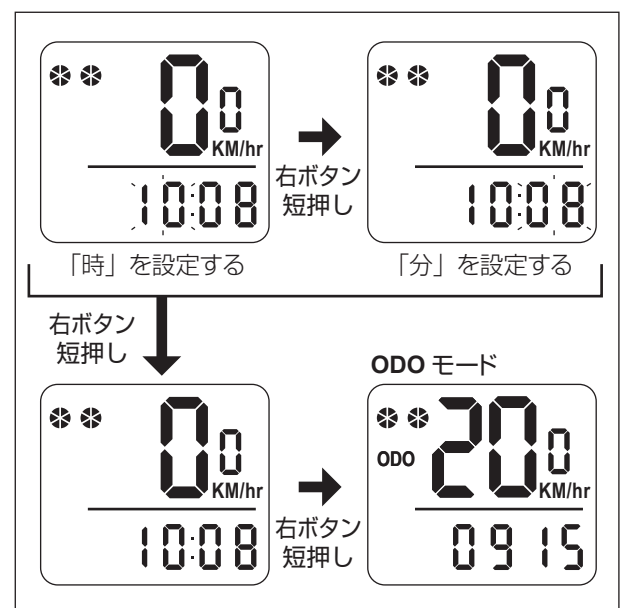
重 要

工場出荷時は「24hr」で設定しています。



ボタン	押し方	操 作
左ボタン	長押し	時間表記を切り替える。
右ボタン	短押し	・画面を切り替える。 ・決定する。
左ボタン		・表示を切り替える。 ・ボタンを押すごとに数字が1ずつ増える。

3. 「時間表記」設定が完了すると、「時間表示部」が点滅します。左ボタンを押して「時」を設定してください。
なお、左ボタンは押すごとに数字が増えます。表示したい時間で右ボタンを押し、「時」を決定してください。
4. 「時」が設定されると「分」が点滅します。左ボタンを押して「分」を設定してください。
なお、左ボタンは押すごとに数字が増えます。表示したい時間で右ボタンを押し、「分」を決定してください。
5. 時計設定が完了したら、右ボタンを押してモニター画面を ODO モードに戻してください。



散布装置の取扱い

メインスイッチ

メインスイッチを「ON」にすると、各ブーム散布スイッチを使用することができます。

重 要

各ブーム散布スイッチが「ON」または「OFF」（水量調整バルブが「開」または「閉」）であっても、メインスイッチを「OFF」にすると水量調整バルブは全て「閉」になります。

ブーム散布スイッチ（右・中・左）

各ブームスイッチを「ON」にすると、各ブームから水・薬剤が散布されます。「OFF」にすると散布が停止します。

重 要

メインスイッチが「OFF」のとき、水量調整バルブが「閉」状態になっていますので、ブーム散布することができません。

ブーム上下スイッチ（右・左）

⚠ 注意

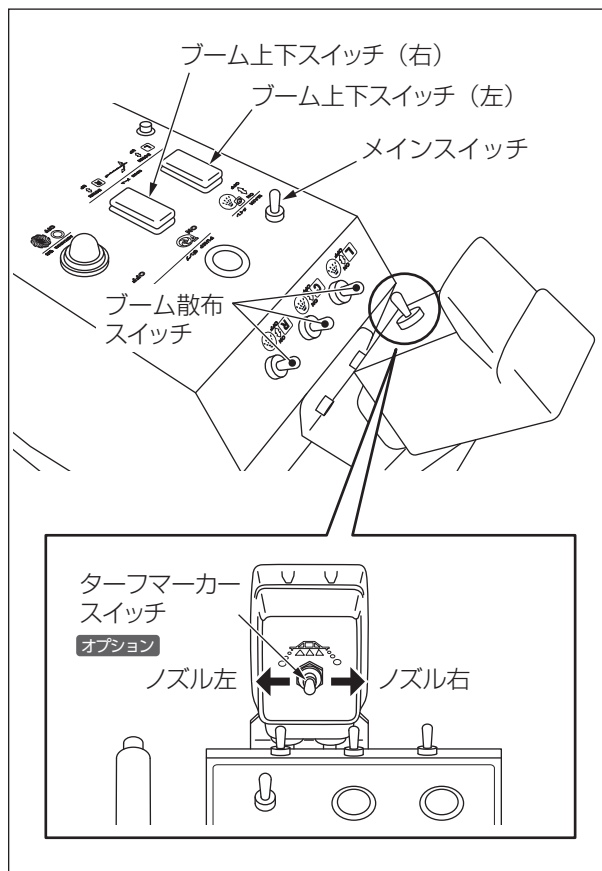
- ・走行中はブームを上げてください。障害物に接触して破損する恐れがあります。
- ・ブームの下は立入禁止です。ブームが落下して人身事故の原因になります。
- ・作業地の状況に応じてブームを上下してください。低い位置の障害物、地面に接触する恐れがあります。

ブーム上下スイッチを UP 側にすると操作した側のブームが上がり、DOWN 側にすると下がります。ブーム上下スイッチを操作している間、ブームが上下します。スイッチを離すとその位置で停止します。

ターフマーカースイッチ（オプション）

散布作業中にターフマーカースイッチを左右どちらかに倒した場合、スイッチを倒した側のターフノズルからマーカース（泡）が出ます。

散布作業が完了した箇所の目安にします。



ポンプ ON スイッチ

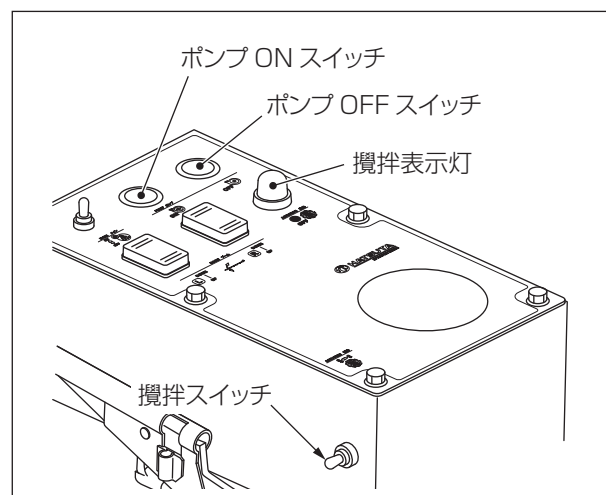
⚠ 注意

エンジンを低速回転の状態で、遠心ポンプを始動してください。

ポンプ ON スイッチを押すと、遠心ポンプが始動します。エンジンの回転数を上げると、ポンプの吐出量が増大します。

重 要

必ずタンク内に水や薬剤があることを確認してから遠心ポンプを始動してください。ポンプの故障の原因になります。(ポンプの空運転の禁止)



ポンプ OFF スイッチ

⚠ 注意

必ずエンジンを低速回転にしてから遠心ポンプを停止してください。

ポンプ OFF スイッチを押すと、遠心ポンプが停止します。エンジンを切るとポンプは OFF 状態となり、再始動時は再度ポンプを ON にする必要があります。

攪拌スイッチ

攪拌スイッチを ON にすると、タンク内の薬剤を攪拌し、攪拌表示灯が点灯します。OFF にすると攪拌を停止して、攪拌表示灯が消灯します。

重 要

- エンジンの回転が上がると攪拌速度が上がります。
- スロットルレバーを高速の位置にすると、攪拌速度が上がります。

運転操作

エンジンの始動

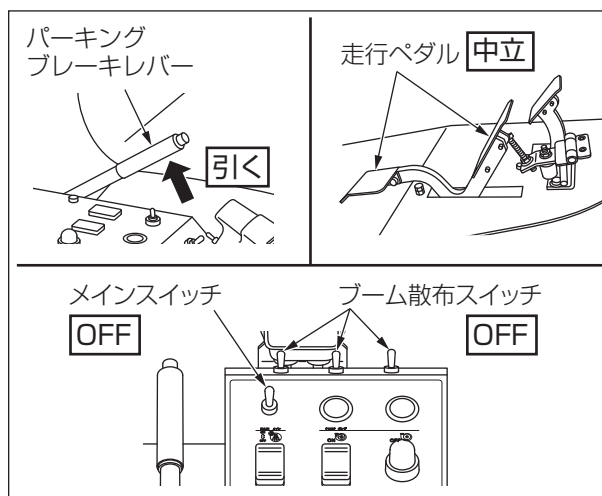
⚠ 注意

- シートに着座し、パーキングブレーキが「ON」位置でアクセルペダルが中立位置にないと、エンジンを始動することはできません。
- 5秒以上連続でセルモータを回さないでください。故障の原因になります。

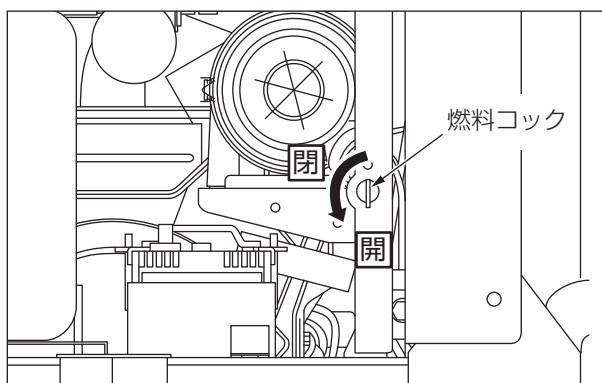
重 要

- 外気温が低く、エンジンの始動がしにくいときは、チョークレバーを引いて始動してください。
- エンジン始動後はチョークレバーを戻してください。

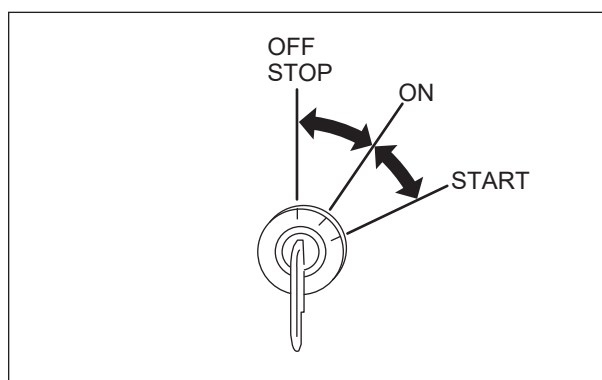
1. シートに座り、パーキングブレーキレバーを引いて走行ペダルが中立位置にあることを確認します。
2. メインスイッチが「OFF」、遠心ポンプが停止、各ブーム散布スイッチが「OFF」の位置にあることを確認します。



3. スタータースイッチにキーを差し込み、燃料コックを「開」にします。



4. キーを「ON」位置までまわして更にスタート位置まで回すと、セルモーターが作動してエンジンが始動します。
キーから手を離すと「ON」位置に戻ります。

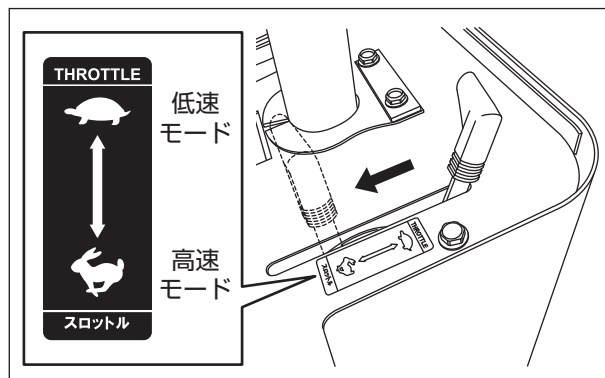


発進・停止

⚠ 注意

急発進・急停車は危険です。車両の横転、破損の原因になります。

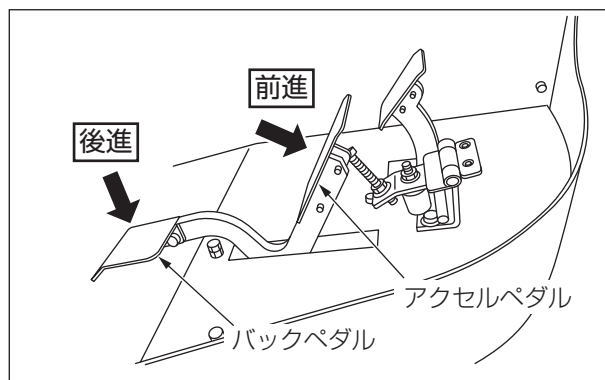
1. エンジン始動後、スロットルレバーを高速モード（うさぎマーク）にします。
2. パーキングブレーキを解除します。



3. アクセルペダルをゆっくり踏込むと車両が前進し、バックペダルを踏むと車両が後進します。

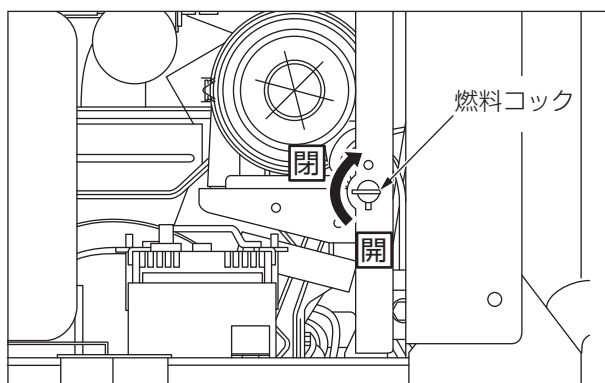
⚠ 注意

車両を後進するときは後方の安全を目視で確認してください。



停止・駐車の方法

1. ブレーキペダルを踏んで車両を平坦な場所で停止します。
2. スターターキーを「OFF」位置にし、エンジンを停止します。
3. パーキングブレーキをかけます。
4. 燃料コックを「閉」にします。
5. スターターキーを抜き取り、車輪止めをします。



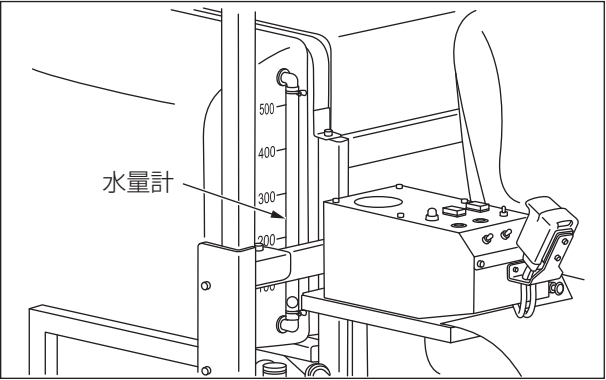
散布作業

散布作業の準備

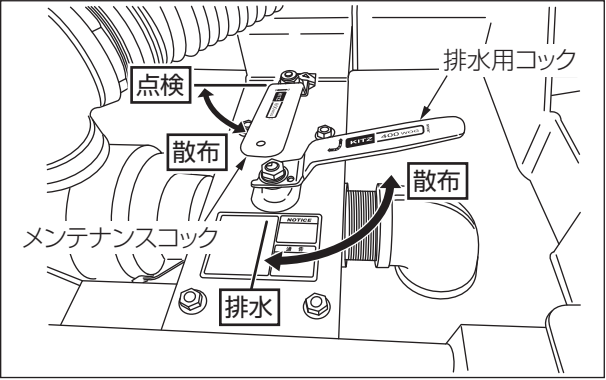
⚠ 注意

排水用コック、メンテナンス用コックの位置を誤ると遠心ポンプが空転し、故障の原因になります。

1. 水量計のフロートで水量を確認しながら、タンクに水または散布剤を入れます。



2. 排水用コック、メンテナンス用コックが「散布」位置にあることを確認します。
3. 使用する薬剤の取扱説明書より 1 m² 当たりの散布水量と散布速度を確認し、P60、61「EG503 水量表ブーム散布表」や P62「EG503 WF, BF 散布表」をもとに、速散速度・使用するノズルチップ・散布圧力を設定します。



重 要

散布速度は均一な散布を行うために、散布エリアの充分に考慮のうえ、安全で一定の速度を保つことのできる速度を選択します。

例：1 m²当たり 200 cc 散布の場合 ……………
作業の散布速度を 5 km/h でノズルチップを 8015# を使用した場合、水量表より圧力 0.3 Mpa で 1 m² 当たり 207.2 cc 散布することができます。
……………

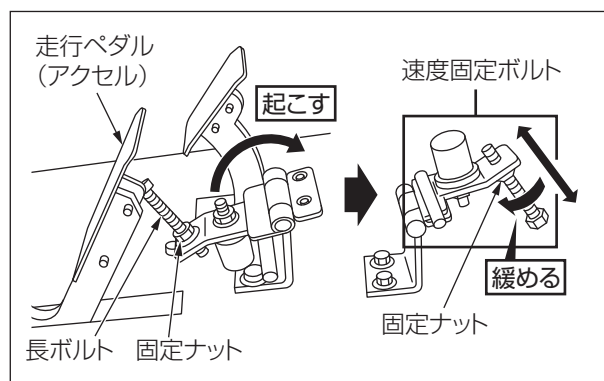
4. **A. ～ C.** の手順で散布作業の準備を行ってください。

A. 走行速度の設定

⚠ 警告

走行速度の調整は走行状態での調整になります。周囲に人や障害物のない、平坦な場所で行ってください。

1. エンジンを始動します。
2. スロットルレバーを低速（カメ）にします。
3. 速度固定ボルトを起こします。
固定ナットを緩め、ボルトの長さで速度調整を選定します。縮めると速度が上がり、伸ばすと速度が下がります。速度設定後、固定ナットを締めて固定します。
4. 長ボルトをアクセルペダルの下にセットします。
5. スロットルを高速（ウサギ）にします。
（エンジン回転数：約 3000 rpm）
6. アクセルペダルをゆっくり速度固定ボルトに当たるまで踏み込み、このときの速度をはかります。
7. 希望する速度になるまで 3. から 6. を繰り返します。

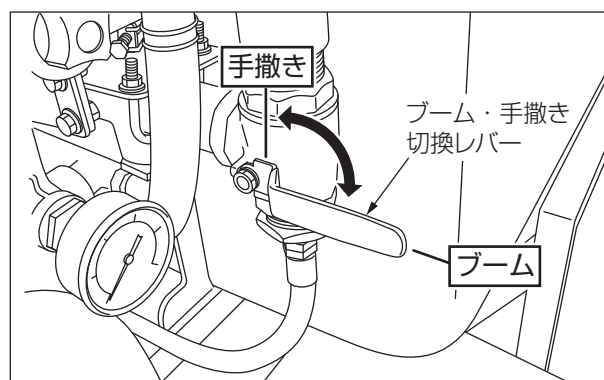


B. 散布圧力を設定

⚠ 注意

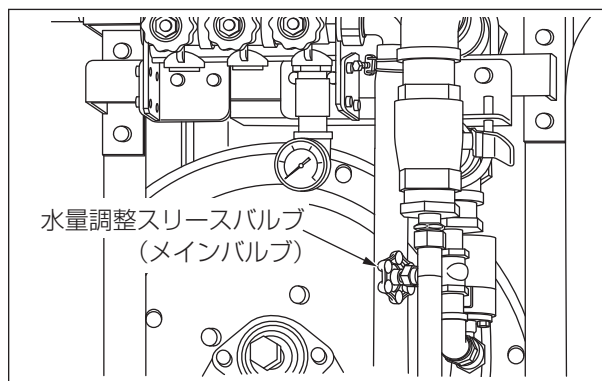
- ・ 散布圧力の調整中は水流攪拌調整バルブに触れないでください。
- ・ 圧力調整ができない場合は弊社もしくは販売店にご相談ください。

1. **A. 2.** で決定したノズルチップを各ブームに取り付けます。
2. ブーム・手撒き切換レバーを「ブーム」側にします。

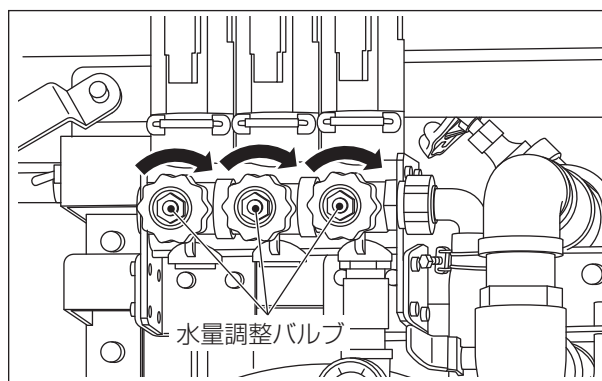


散布作業

3. 水量調整スリースバルブ（メインバルブ）を反時計方向にまわして「全開」にします。



4. 各水量調整バルブのダイヤルつまみを時計回りに回して「全閉」にします。

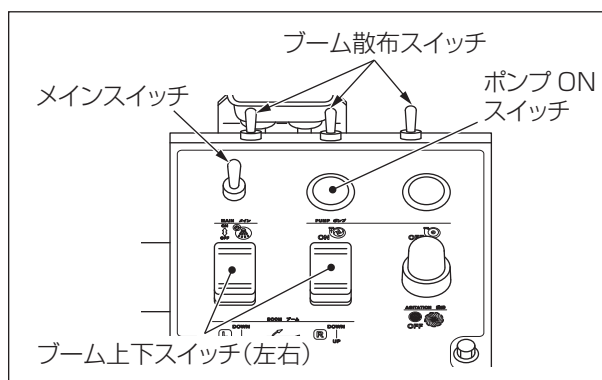


5. エンジン始動後、ポンプ ON スwitchを押して低速回転でポンプを始動させます。

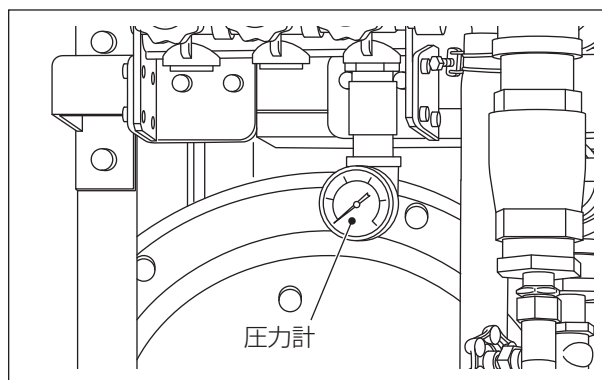
6. ポンプ始動後、エンジン回転数を 3000 rpm まで上げます。

7. 各ブーム上下スイッチを操作し、左右のブームを水平位置にします。

8. 各ブームスイッチ「ON」、メインスイッチ「ON」にし、ブーム散布を始めます。



9. 水量調整スリースバルブを時計回りに回し、圧力計が設定圧力になるように調整します。

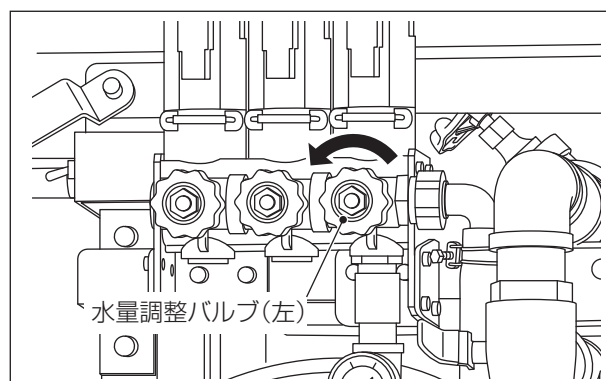


c. 各ブームの水量調整バルブの調整

重 要

- 各ブーム散布スイッチの「ON」「OFF」に関係なく、各ブームの散布水量が変わらないように水量調整バルブで調整します。
- 水量調整バルブは、速度変化に応じて散布水量を調整する定量散布装置ではありません。

1. ブーム散布スイッチ（左）を「OFF」にすると、圧力計の数値が上がります。
2. 水量調整バルブ（左）のダイヤルつまみを反時計回して設定した圧力になるように調整します。
3. ブーム散布スイッチ（左）を「ON」にします。
4. 1. から 3. と同様の手順で、他のブームの散布圧力も調整します。
5. 調整が完了したら、ポンプとメインスイッチを「OFF」にして終了してください。

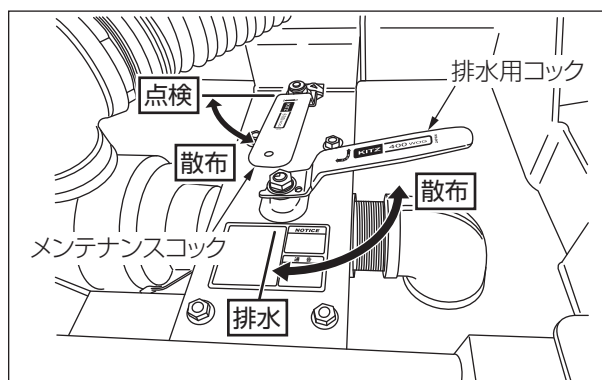


ブーム散布作業

1. 排水用コック、メンテナンス用コックが「散布」位置にあることを確認します。

⚠ 注意

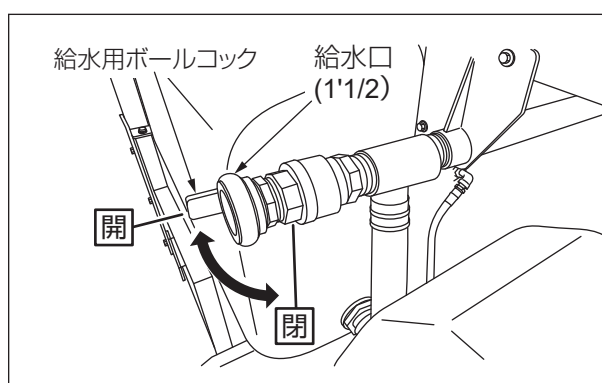
排水用コック、メンテナンス用コックの位置を誤ると遠心ポンプが空転し、故障の原因になります。



2. 給水用ボールコックを「開」にして給水口 (1'1/2) に給水ホースを接続してタンクに水を注入します。

⚠ 注意

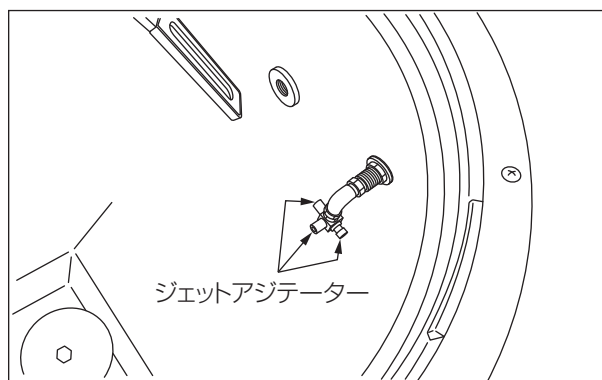
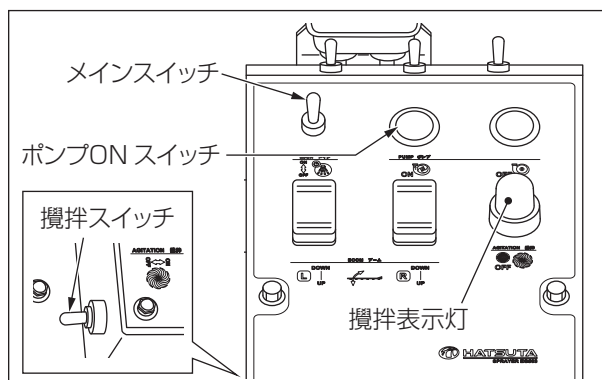
給水口を使用するときは、必ずタンク蓋が開いていることを確認してから給水してください。オーバーフローした際に蓋を締めたままにすると、水の圧力で蓋が破損する恐れがあります。



3. エンジン始動後、ポンプ ON スイッチを押して低速回転でポンプを始動させます。
4. ポンプ始動後、エンジン回転数を 3000rpm まで上げます。
5. 攪拌スイッチを「ON」にしてから、タンクに薬剤を入れます。

⚠ 注意

- 溶けにくい薬剤は少量ずつ、時間をかけて攪拌してください。
- エンジンやポンプが停止した状態のときは、タンク内のジェットアジテーター（攪拌装置）も停止します。
- エンジンの回転数上がると、攪拌効率も上がります。

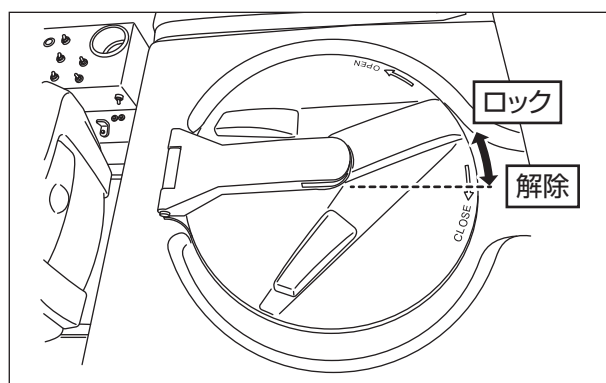
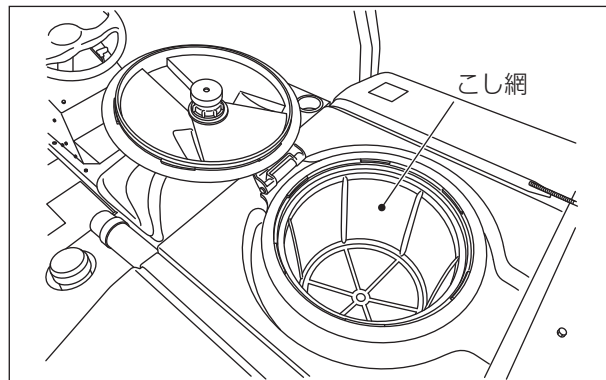


⚠ 注意

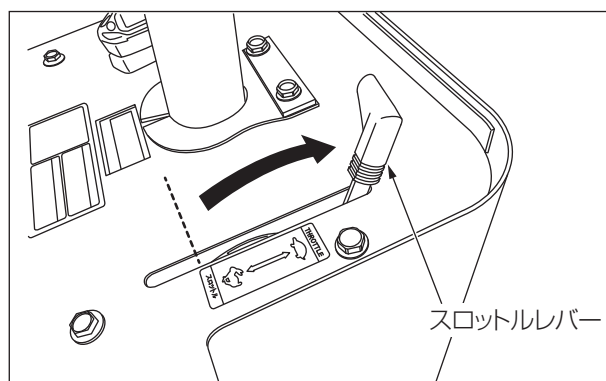
タンク内のこし網を取外さないでください。ポンプの故障やチップの目詰りの原因になります。

重 要

作業中はタンクのふたを必ずロックしておいてください。ふたが開いてタンク内の水がこぼれる場合があります。



6. スロットルレバーを低速（カメ）側にし、作業に応じた速度固定ボルトをセットします。
7. ブーム上下スイッチを操作し、左右のブームを水平位置にします。
8. 車両を散布エリアに移動させます。



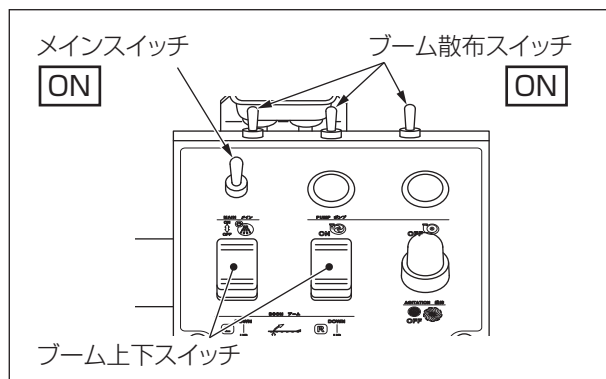
9. 各ブーム散布スイッチ、メインスイッチの順にスイッチを「ON」にし、散布作業を開始します。散布を停止する場合はメインスイッチを OFF にしてください。

⚠ 注意

タンク内に水や散布剤が入っているときは、重心が不安定になります。丁寧に確実な運転を心がけてください。

重 要

ブーム散布スイッチとメインスイッチは、操作すると動作まで多少のタイムラグがあります。



手撒き散布作業

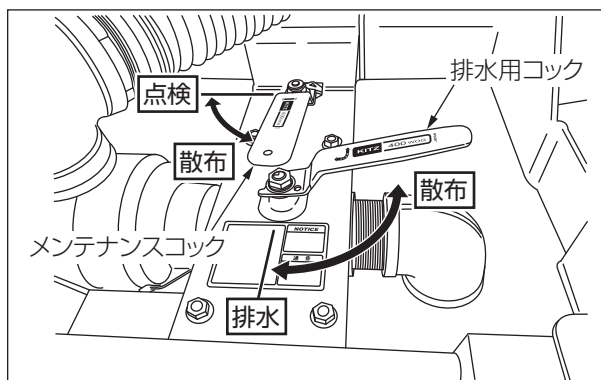
⚠ 注意

給水口を使用する場合は、必ずタンクの蓋が開いていることを確認してから給水してください。蓋を閉めたまま給水すると、オーバーフローした際に水の圧力で蓋が破損する恐れがあります。

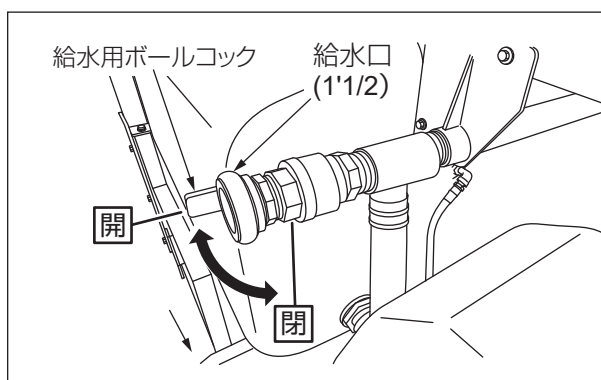
1. 排水用コックとメンテナンス用コックが「散布」位置にあることを確認します。

⚠ 注意

排水用コックとメンテナンス用コックの位置を誤ると遠心ポンプが空転し、故障の原因になります。



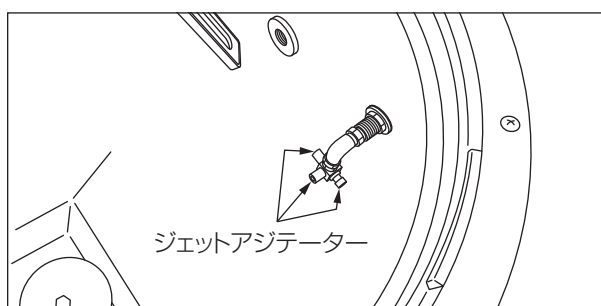
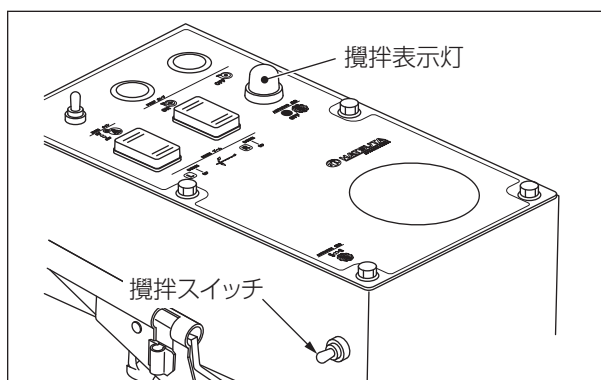
2. 給水用ボールコックを「開」にします。
次に給水口 (1'1/2) に給水ポンプを接続し、タンクに水を注入します。
3. エンジン始動後、ポンプ ON スイッチを押して低速回転でポンプを始動させます。
4. ポンプ始動後、エンジン回転数を 3000 rpm まで上げます。



5. タンクのふたを開けて薬剤を入れ、攪拌スイッチを「ON」にして攪拌します。

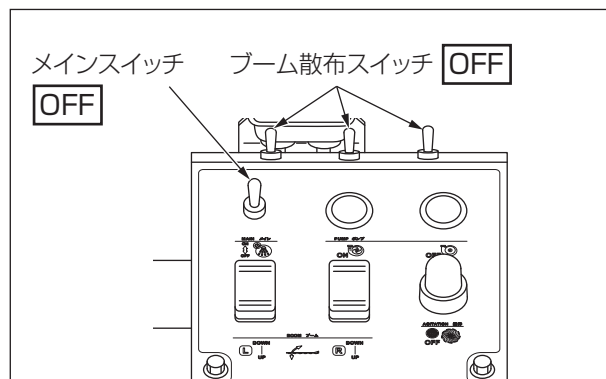
⚠ 注意

- 溶けにくい薬剤は少量ずつ、時間をかけて攪拌してください。
- エンジンやポンプが停止した状態のときは、タンク内のジェットアジテーター（攪拌装置）も停止します。
- エンジンの回転数上がると、攪拌効率も上がります。

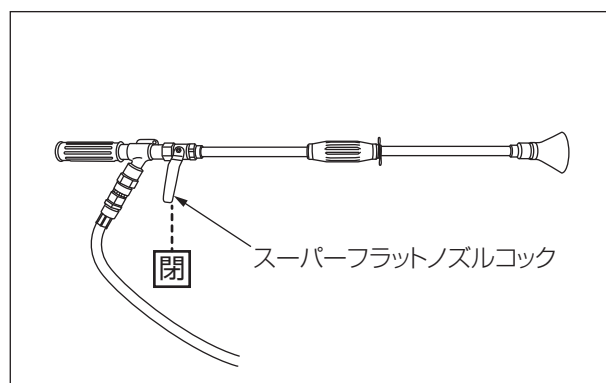


6. 車両を散布エリア付近の平坦で堅牢な場所に移動させ、パーキングブレーキをかけます。

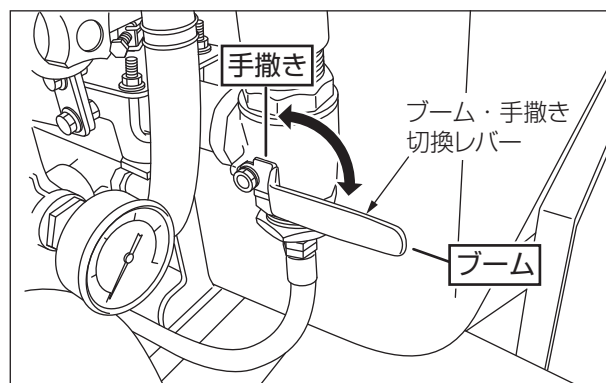
7. メインスイッチ、ブーム散布スイッチが「OFF」になっていることを確認します。



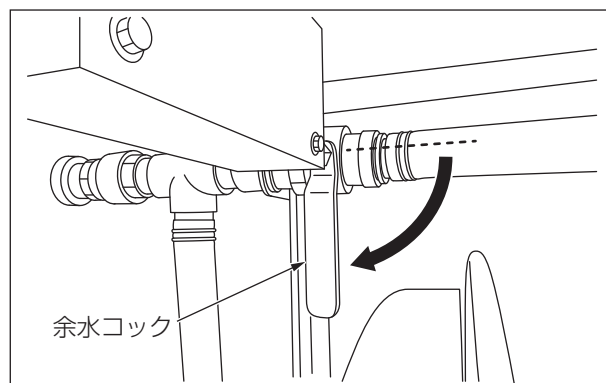
8. スーパーフラットノズルコックが閉じていることを確認します。



9. ブーム／ホース切換コックを手撒きホース側にします。



10. 余水コックを閉じます。

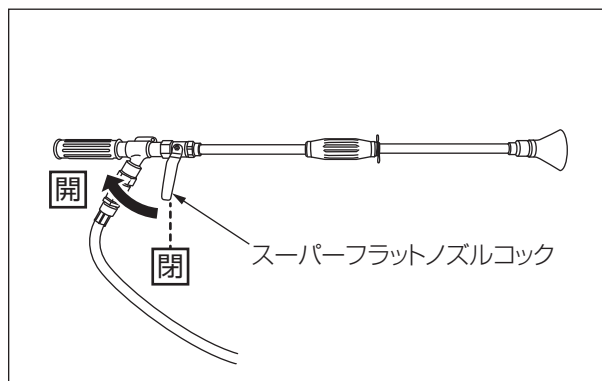


散布作業

11. スロットルレバーを低速（カメ）側にし、エンジン回転数を「低速」にします。
12. ポンプスイッチを「ON」にします。
13. スロットルレバーを高速（うさぎ）側にし、エンジン回転数を「高速」にします。
14. スーパーフラットノズルコックを開けるとコックから水が噴霧されるので、ホースを引き出し、ノズルをもって手元にあるコックを開いて散布を行ってください。

⚠ 注意

散布水量や散布圧力は、使用するノズルごとに異なります。P60、61「EG503 水量表ブーム散布表」や P62「EG503 WF, BF 散布表」を参照し、適切な散布水量と散布圧力に調整してください。

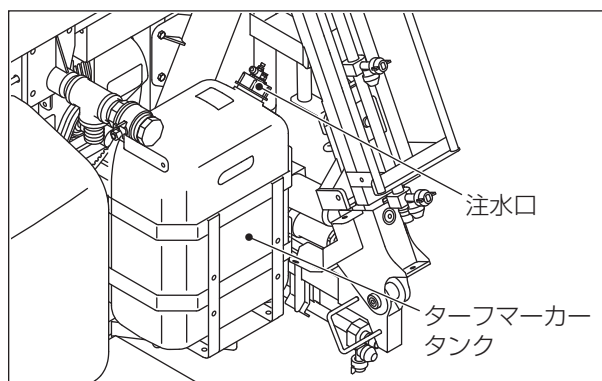


ターフマーカ（オプション）の使いかた

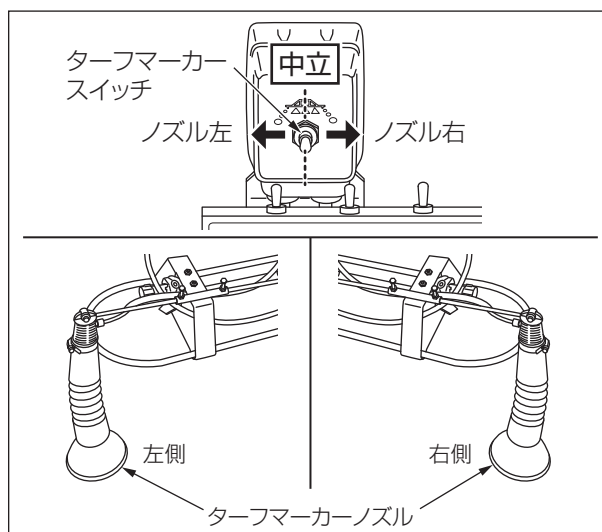
散布作業が終了した場所がわかるように、ターフマーカ（泡）でマーキングします。

1. ターフマーカ液を 1.5 ～ 2.0% に希釈した希釈水（タンク満水 22.5L に対し、原液 340 ～ 450cc）を、ターフマーカタンクの注入口からタンクに入れます。

希釈水	ターフマーカ液を 1.5 ～ 2.0% に水で希釈する
-----	-----------------------------



2. ターフマーカスイッチを左側に倒すと左ブームの、右側に倒すと右ブームの先端のターフマーカノズルからマーカ（泡）噴出します。スイッチから手を離すと中立位置に戻り、噴出が止まります。



散布作業後の処置

△注意

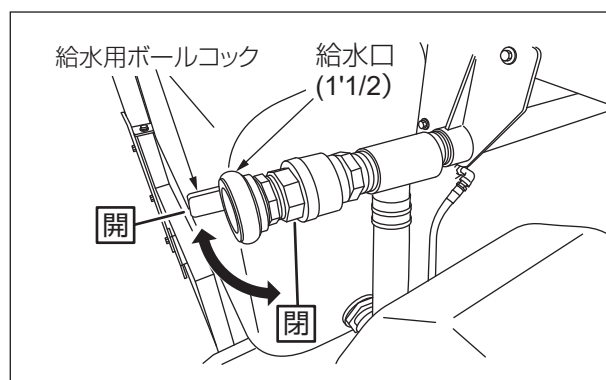
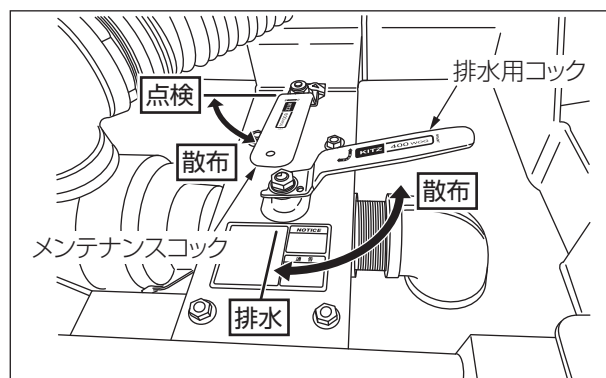
以下の故障に関しては保証の対象外になります。十分に注意してください。

- 作業終了後の処置を怠ると、車両の寿命を縮めるだけでなく故障の原因になります。
- 着色剤などの展着剤を使用したときは、念入りに洗浄作業をしてください。そのまま放置すると配管やポンプ内で固まり、オイルシールの破損やポンプ内の部品が固着して、水漏れや故障の原因になります。
- 作業終了後は全てのコックを開いた状態で保管してください。思わぬ事故を防ぐため、冬季のみならずオールシーズン開いておくことを推奨します。

- 散布作業後は必ずタンクや散布用配管、ノズル、中間ストレーナーを洗浄してください。
- 車体に付着した薬剤、汚れは丁寧に除去してください。また、タイヤに付着した泥もきれいに除去してください。車体、ホイールの腐食の原因になります。
- 次回の作業に備えて、車両に破損、摩耗した部品や脱落した部品がないかを点検してください。ノズルの穴に詰まりがないか確認してください。

洗浄のしかた

1. 散布作業終了後、排水用コックを「排水側」にして、タンク内の水を完全に排水します。
2. 排水用コックを「散布側」にします。
3. 排水用コックを散布側にし、給水用ボールコックを「開」にして、給水口（1'1/2）よりタンクに清水を注入します。
4. ポンプスイッチを「ON」にし、タンク配管内を洗浄します。
5. ブームから散布し、散布用配管を洗浄します。手撒き作業をしたときは、ホースとスーパーフラットノズルも同様に洗浄してください。



△注意

洗浄作業をするときは、ポンプを空転させないように注意してください。ポンプの故障の原因になります。なお、タンクを空にするときは排水口から排水してください。

凍結の予防処置

⚠ 注意

凍結が原因による部品の破損は、保証の対象外になります。必ず配管内の水は抜き取ってください。

厳冬期はポンプや散布配管、散布装置内の凍結を防止するため、配管内の水を抜きとっててください。

各部の水の抜き取りかた

中間ストレーナー内

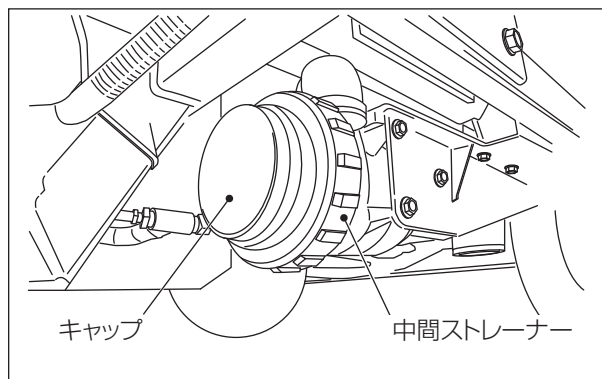
中間ストレーナーのキャップを外し、水を抜き取ってください。

各部ホース

止め金具を緩め、水を抜き取ってください。

ブーム配管内

ノズルを取り外し、水を抜き取ってください。



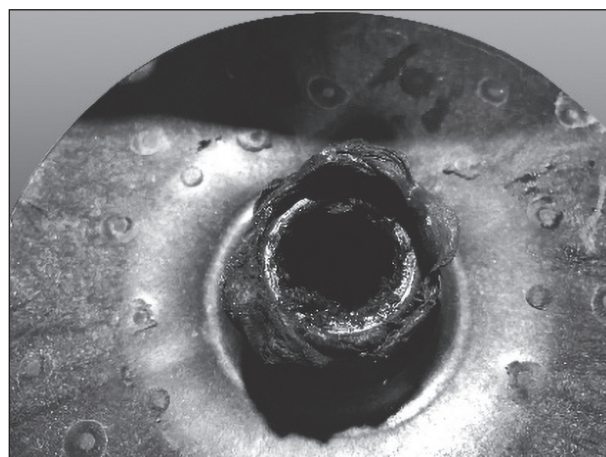
重 要

- ブーム配管内のノズルはチェックバルブがついているため、ノズルから配管内の水が抜けません。
- 冬季のみならず、季節に関わらず各部の水を抜き取ることを推奨します。中間ストレーナーに大きなゴミが詰まっている等、機械の故障につながる事故を未然に防ぐことができます。

その他の使用時の注意

セントリーヒューガルポンプ (遠心ポンプ)

- セントリーヒューガルポンプ（遠心ポンプ）はタンク内に水があることを確認し、エンジン低速時に始動してください。絶対にポンプを空転させないでください。故障の原因になります。
- 使用される薬剤・液肥などに特に制約はありませんが、薬剤や液肥の形状によりポンプ内部の部品（ポンプ、シール、水量調整バルブ）の急激に損耗させるものがあります。例えば、水和剤系（水に溶けずに混ぜるだけの薬剤）は損耗を促進させるので、これらの薬剤を使用する場合はご注意ください。
- 水量調整バルブも同様に薬剤や液肥の形状により摩耗がすすみ、水漏れや圧力の低下、吐出量の低下が起こりすることがあります。
- セントリーヒューガルポンプ（遠心ポンプ）の内部部品の損耗による故障については、保証の対象外になりますので注意してください。



使用される薬剤について

- 水和剤や水に溶けない肥料などを散布する場合は、少しずつタンクに投入してください。特に溶けにくいものはあらかじめバケツなどの容器でよく混ぜてから、少しずつ投入してください。また、過度なタンクミックスは避けてください。
- 鉄剤については粗いものを避け、極力細かい粉末のものを使用してください。鉄剤はポンプの消耗を促進するので、できるだけ液体のものを使用することを推奨します。
- 散水栓などから給水するときは、砂などの異物がタンク内に入らないように注意してください。また、極力きれいな清水を使用してください。
- 作業終了後は、必ずポンプや配管内を清水で洗浄してください。タンクから散布配管に至るまできれいな水を通し、散布ノズルからきれいな水が出るまで行ってください。特に着色剤・展着剤・浸透剤などを使用した後は、必ず清水で洗浄してください。洗浄を怠るとポンプ、配管内で固着しオイルシールが硬化して水漏れや、ポンプの破損の原因になります。
- 着色剤はシールに浸透しやすく、部品の劣が著しく早くなります。
- ストレーナやノズルチップが詰まるような薬剤は使用しないでください。

点 検

始業点検

その日の作業を始める前に始業点検を行ってください。

点検時の注意

⚠ 警告

オイルの漏れやパイプの点検は、素手で行わないでください。高圧の流体（油、水）は、皮膚を突き抜け体内に入る恐れがあります。ボール紙などで触るようにしてください。

- 点検（特に油量点検）は平坦な場所で行ってください。
- 点検するときはパーキングブレーキを確実にかけ、必要であれば車輪止めをしてください。
- エンジンを始動して行う点検は、換気の良い場所で行ってください。閉め切った屋内で行うと、排気ガスによる中毒を起こす恐れがあります。
- オイルや油脂類は、弊社が推奨しているものを使用してください。
- 油脂類の交換で出た廃油をみだりに処理しないでください。水質汚濁や土壌汚染になります。処理方法につきましては、弊社にご相談ください。

点検箇所		内 容
車両の状態		車両の周りをまわって異常がないか、損傷や亀裂などが無いかを点検します。オイル漏れなどないか点検します。
前日の異常箇所の処置		前日の作業で異常があった箇所の修理ができているか点検します。
オイルや燃料、水の漏れ		オイルや燃料、水などの漏れが無いか点検します。 ※漏れがあるときは修理が完了するまで作業をしないでください。
オイルの量		オイルゲージでオイルの量を点検します。
タイヤ	前輪（ウレタンタイヤ）	タイヤに摩耗、破損がないかを点検します。
	後輪（チューブタイヤ）	タイヤに亀裂や金属片等が刺さっていないか、タイヤ溝は適正か、空気圧は適切であるかを点検します。
ホイールの亀裂		ホイールに亀裂がないか点検します。
ハブナットのゆるみ		ハブナットに緩みがないかを点検します。緩みがあれば標準トルクで締め付けてください。
遠心ポンプの状態		水漏れを起こしていないかを確認します。
中間ストレーナーの状態		中間ストレーナーの内部を確認し、ゴミや目詰まりを起こしていないか点検します。
ブームの撒布の動作		真水で一度撒布し、スイッチの ON/OFF を行って水がしっかり止まっているか点検します。
手撒きの撒布の動作		真水を撒布し、撒布ができるか確認します。
圧力の確認		タンクに真水を溜めて圧力計を確認しながら、圧力が上がってこない等の不具合がないか確認します。

エンジンオイル油量、汚れの点検

エンジンオイルゲージは、シートの下と座席台内にあります。座席台を上げて、エンジンオイル油量と汚れの点検を行ってください。

座席台の開閉のしかた

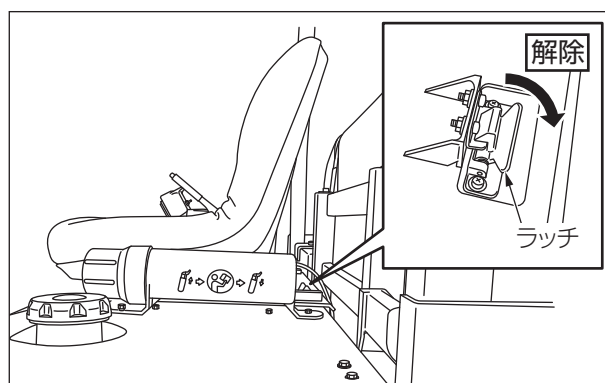
⚠ 警告

座席台の開けて作業をするときは、必ずストッパーをかけてください。落下する恐れがあります。

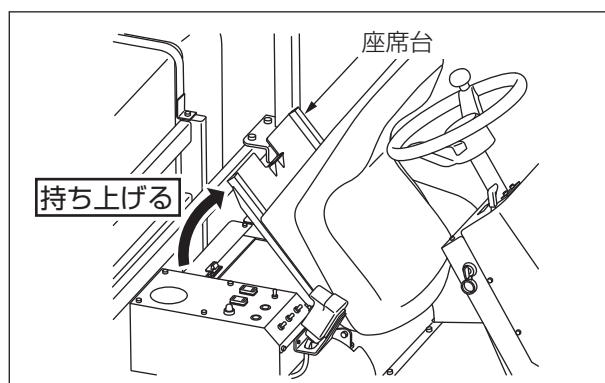
⚠ 注意

座席台の開閉をするときは、指を挟まないように注意してください。

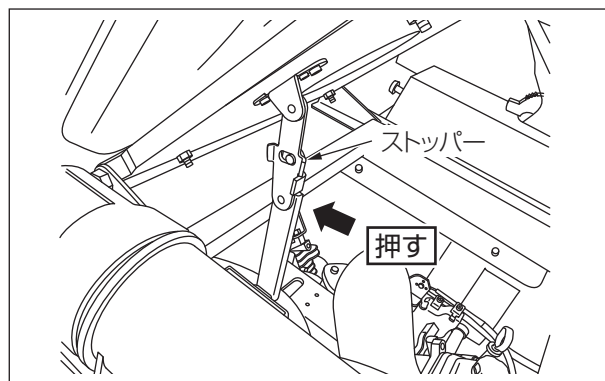
1. シート後方のラッチをつまみ、ロックを解除します。



2. シートと座席台を上を持ち上げます。



3. 座席台が落下しないようにストッパーをかけます。

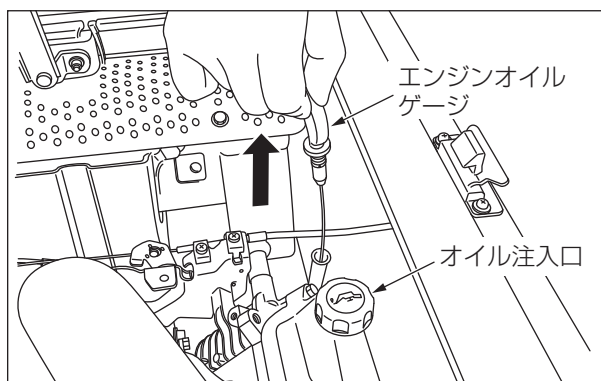


エンジンオイルの点検のしかた

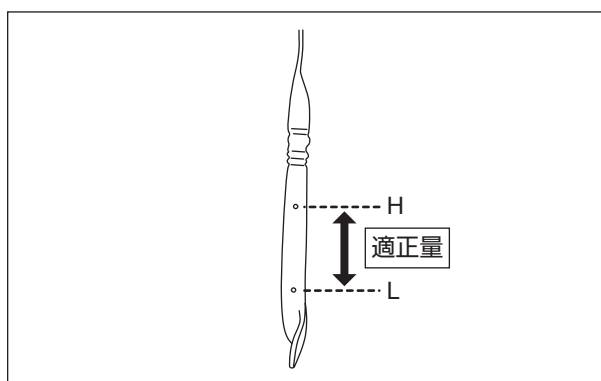
⚠ 注 意

- エンジンオイルの点検は、水平な場所で行ってください。
- エンジン停止直後のエンジンオイルは高温になっています。エンジンが十分に冷えてから、点検を行ってください。
- エンジンオイルの変色や汚れがひどい場合は、交換時期前でもオイル交換を行ってください。

1. エンジンオイルゲージを抜き出し、きれいなウェスでゲージの先端を拭いてオイルの汚れを点検します。
2. レベルゲージを差し込み、再度引き抜き付着したオイルで油量を測定します。



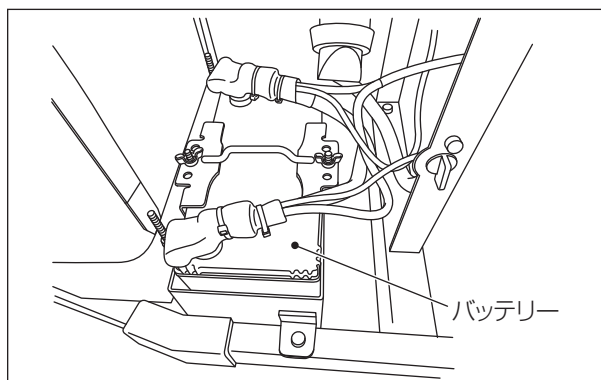
3. 油面がオイルゲージの適正範囲にあれば「適量」です。油面がL位置より低いときは、H位置を超えないようにエンジンオイル注油口より指定のエンジンオイルを補給します。



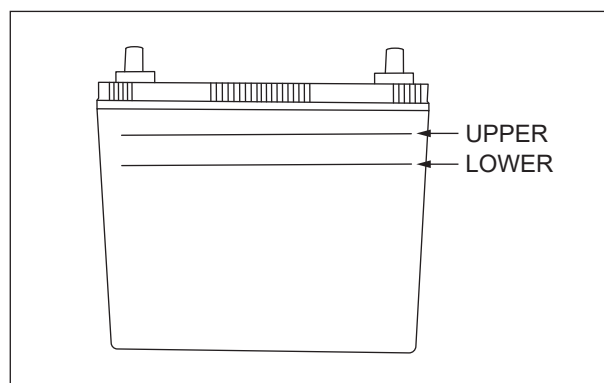
エンジンオイル銘柄	SAE10W 30
エンジンオイル量	1.9 ℓ

バッテリー液量の点検

1. バッテリーはエンジンカバー内にあります。バッテリーを点検する時はエンジンカバーを取外してください。



2. バッテリー液が「UPPER」から「LOWER」レベルの間にあるかを点検します。液面が「LOWER」より下のときはバッテリー液を補給してください。



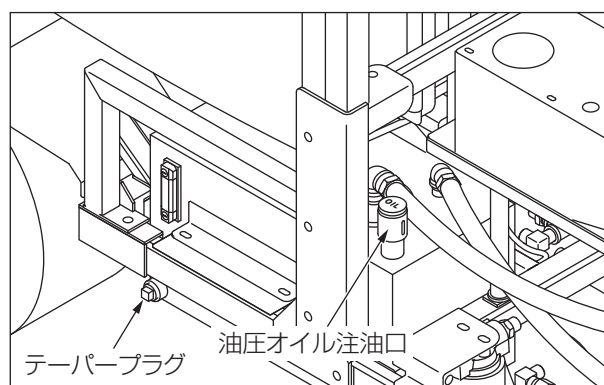
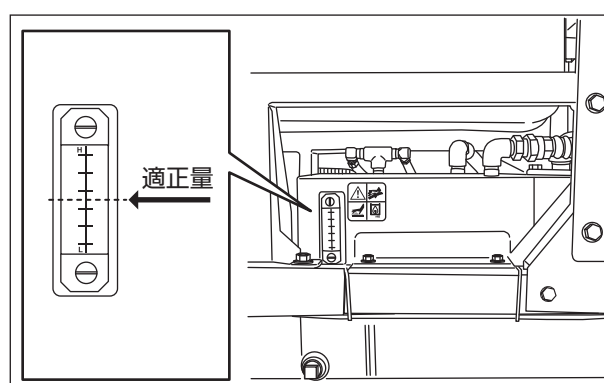
油圧オイルの油量点検

⚠ 注意

油圧オイルの透明度が少しでも下がった場合は、すぐに交換してください。

油圧タンクのオイルゲージで油量を点検します。油圧オイルが適正位置（中央）より低い場合は、指定の油圧オイル注油口より補給します。

推奨オイル銘柄	ISO VG46 #
作動油タンクオイル量	30ℓ



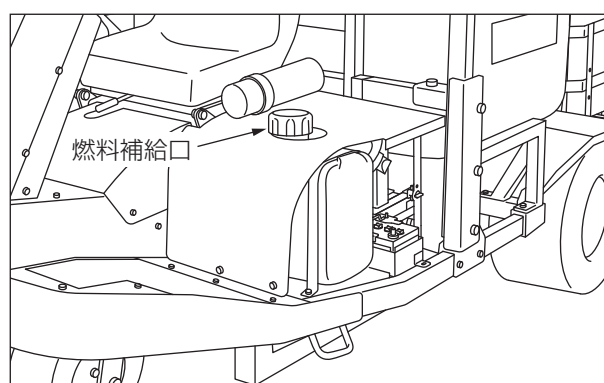
燃料残量の点検

⚠ 警告

燃料を補給するときは禁煙。火気を近付けない。火災の原因になります。

作業する前に十分な燃料があるかを確認します。不足している場合は、燃料補給口から補給しておきます。

使用燃料	無鉛レギュラーガソリンオクタン価 86 以上
------	------------------------



エンジン始動時の点検

⚠ 注 意	
エンジンをかけて行う点検は、十分なスペースがあり、人がいない場所で行ってください。	

点検箇所	内 容
エンジンのかかり具合	スターターキーを回し、エンジンがスムーズに始動するか確認してください。
排気音や排気の状態	排気音や排気ガスの色に異常がないかを点検してください。
低速および加速状態	スロットルレバーを低速、または高速位置にしてアクセルを踏み、スムーズに前進や加速をするか点検してください。
かじ取り装置	ハンドルを回し、スムーズに左右に旋回するか点検してください。
ブームの動作	ブーム上下スイッチを操作して、左右ブームがスムーズに動作するかを確認してください。

その他の点検

点検箇所	内 容
散水配管の緩みや漏れ	散水配管に緩みや漏れがないかを点検してください。
ストレーナーの詰まり	中間ストレーナーに詰まりがないかを点検してください。詰まりがあれば清掃し、汚れが激しいときは新しいものと交換してください。
スプレーボディとチップの損傷や摩耗	ダイヤフラムの点検をしてください。 ●黄色のキャップを取り外し、薄手のパッキンとバネが薬剤で固着していないか点検してください。 ●使用しているうちにチップが摩耗により口が大きくなり、希望の水量以上に吐出してしまうので、定期的にチップが摩耗していないかを確認し、摩耗があれば交換してください。 ●チップキャップを外した際にストレーナーとゴムパッキンを点検し、損傷が確認できたら交換してください。
ジェットアジテーターの目詰まり	タンク内のジェットアジテーターに目詰まりがないかを点検し、目詰まりがあれば清掃してください。
各部ねじの緩み	各部の取付けねじやナットにゆるみがないかを点検し、ゆるみがあれば増し締めをしてください。
パーキングブレーキのワイヤー	パーキングブレーキワイヤーの「のび」を点検し、のびがあれば調整してください。

定期点検

車両をいつまでも調子のよい状態でご使用いただくために、定期点検を確実に行ってください。
「調子がよいから必要はない。」と放置せず、故障や性能低下を招く原因を早期に発見・処置をすることで、
車両は十分な性能を発揮し、さらには車両の寿命を長く保つことができます。
なお、複雑な点検や整備が必要となった場合は購入された販売店へご連絡をお願いします。

定期点検基準表

この時間は標準的な稼働時間、作業条件をもとに設定しています。稼働時間や作業時間が異なる場合は早目に点検や調整、交換をしてください。

○：清掃・点検 ●：交換

点検項目	1 か月 または 50 時間	3 か月 または 100 時間	6 か月 または 200 時間	12 か月 または 400 時間	24 か月 または 800 時間
エンジンオイル※	○	○			
エンジンオイルフィルター	● (初回のみ)			●	
燃料フィルター		○			●
燃料ホース					●
燃料ホースクリップ				○	
燃料タンクの清掃					○
エアークリーナーエレメント	○			●	
グリース給脂	○				
バッテリー液の比重			○	○	○
バッテリー					●
エンジンマウントボルト					○
電気配線					○
油圧オイル					●
油圧オイルフィルター					●
油圧ホース					●

※：初回は 8 時間、2 回目は 50 時間、以降は 100 時間ごとに交換してください。

エンジンオイルの交換

交換時期：初回 8 時間、2 回目 50 時間、以降は 200 時間ごと

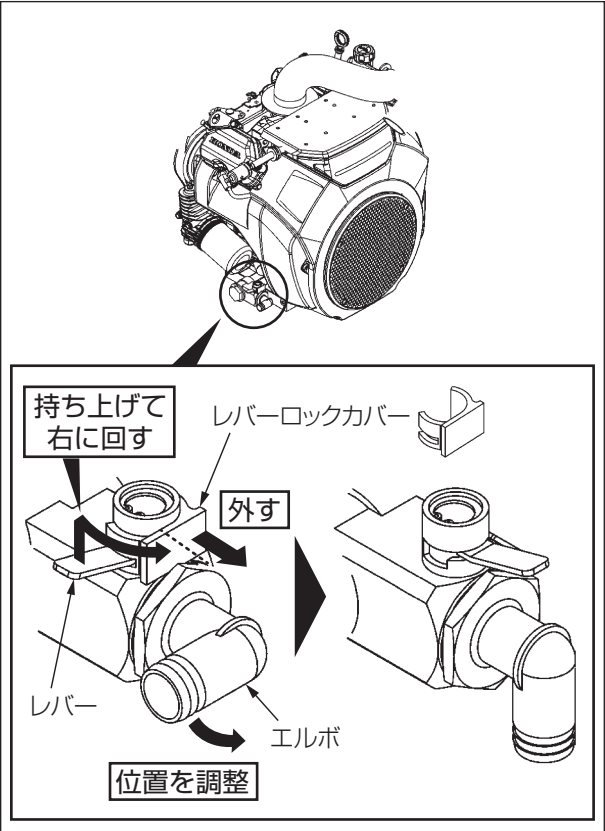
⚠ 危険

- ・エンジン停止直後はエンジンオイルが高温になっています。エンジンが十分冷えてから作業を行ってください。
- ・交換した廃油はむやみに廃棄しないでください。環境汚染・破壊の原因になります。専門業者に処分を依頼してください。

1. 車両を平坦な場所に駐車し、レバーロック用のカバーを外します。
2. エルボの下にオイルパンを置き、ドレーンコックのエルボを排油しやすい位置に調整します。
3. レバーを上を持ち上げ、右に回して排油します。
4. 排油が完了したら、レバー、カバー、エルボを元の位置に戻します。
5. エンジンオイル注油口より指定されたエンジンオイルを規定量注入します。

指定エンジンオイル	SAE10W-30 SE 級以上
エンジンオイル規定量	交換時：1.5 ℓ (フィルタ込み：1.7 ℓ)

6. エンジンを数分始動します。
7. エンジンオイルが規定量入っているか確認してください。



⚠ 注意

こぼれたエンジンオイルは、ウェス等できれいに拭き取ってください。火災の原因になります。

重 要

排油作業は全て工具不要で行うことができます。

エンジンオイルフィルターの交換

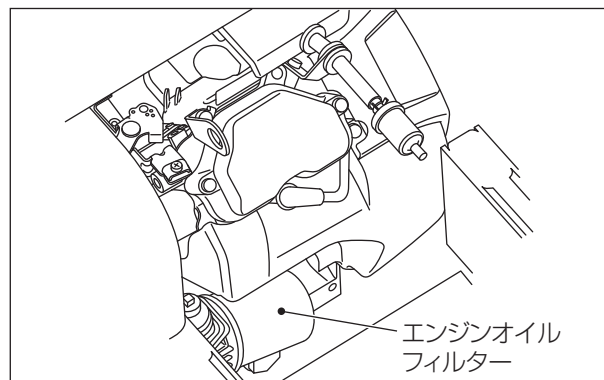
交換時期：初回のみ 50 時間、200 時間ごと

エンジンオイルフィルターはエンジンカバー内のバッテリーの下側にあります。

重 要

- エンジンオイル交換と一緒に交換を行ってください。
- オイルフィルターの交換はエンジンオイルを全て排出してから行ってください。

1. エンジンカバーを開け、バッテリーを取外します。
2. エンジンオイルフィルターを手で反時計回りに回し、取り外します。
3. 新しいオイルフィルターの O リングにエンジンオイルを塗布し、元通りになるように手で取り付けます。



燃料フィルターの点検・清掃・交換

点検時期：100 時間ごと／交換時期：200 時間ごと

⚠ 警告

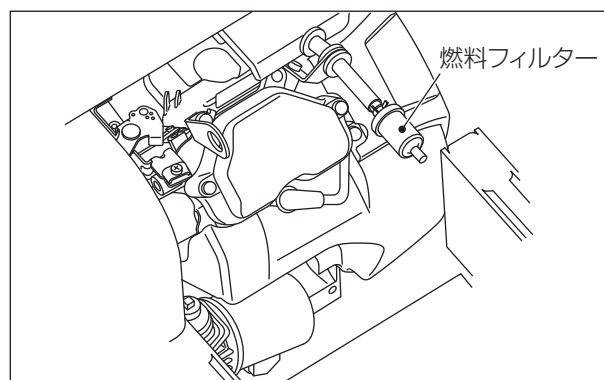
- 燃料系統の点検は、禁煙かつ火気厳禁で作業します。火災の原因になります。
- こぼれた燃料はウェスなどできれいに拭き取ってください。

燃料フィルターはエンジンカバー内のバッテリーの左横にあります。

燃料フィルターに汚れ、目詰まりがないか点検します。詰まりがあれば灯油で洗浄してください。汚れが激しいときは、交換時期の前でも交換してください。

⚠ 注意

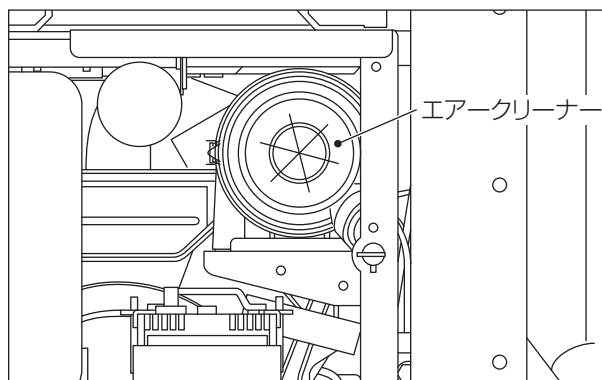
燃料フィルターの洗浄および交換後は、燃料の漏れがないかを確認してください。



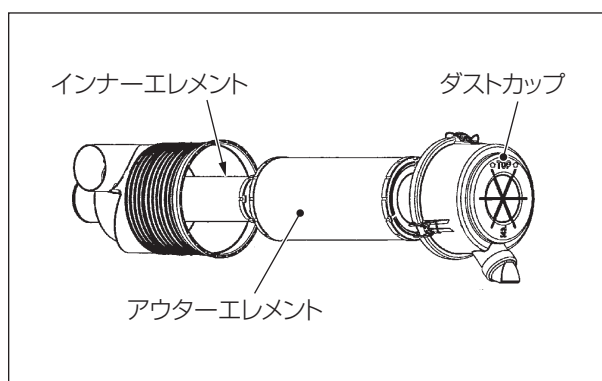
エアークリーナエレメントの清掃・交換

清掃時期：50 時間ごと／交換時期：400 時間ごと

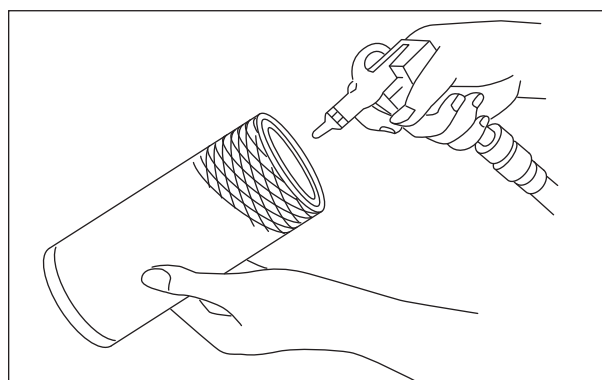
1. クリップを外して、ダストカップを取外します。



2. エアークリーナーからアウターエレメント、アウターエレメントを抜き取ります。エアーリーナ内部を清掃します。



3. 圧縮空気や棒で軽く叩いたりしてエレメントを清掃します。



⚠ 注意

- ・圧縮空気を使用するときは保護メガネを着用してください。
- ・棒などで叩いて清掃するときは、エレメントを破損しないように十分に注意してください。

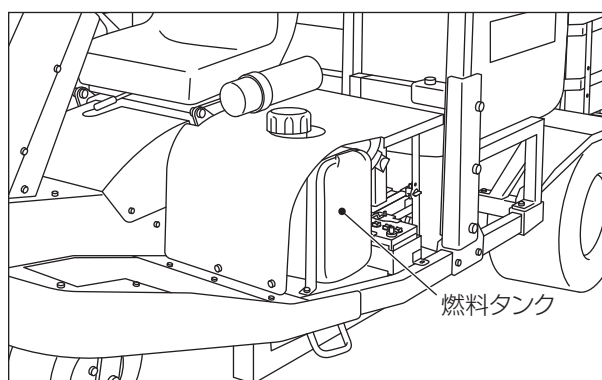
重 要

エレメントの汚れが激しいときは、交換時期より前でも交換してください。

燃料タンクの洗浄

洗浄時期：800 時間ごと

1. 燃料タンクを車両から取り外します。
2. 燃料を空にし、タンク内を灯油で洗浄します。
3. 完全に乾いてから取り付けてください。



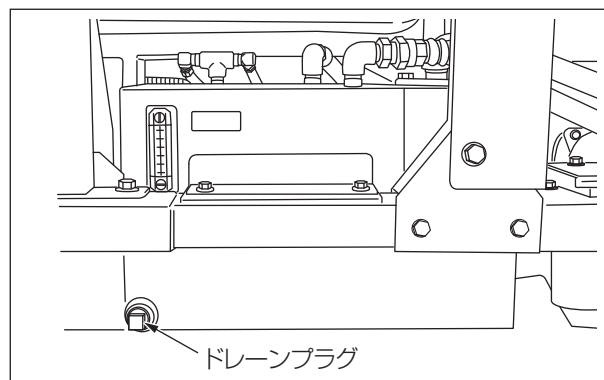
油圧オイル・油圧オイルフィルターの交換

交換時期：800 時間ごと

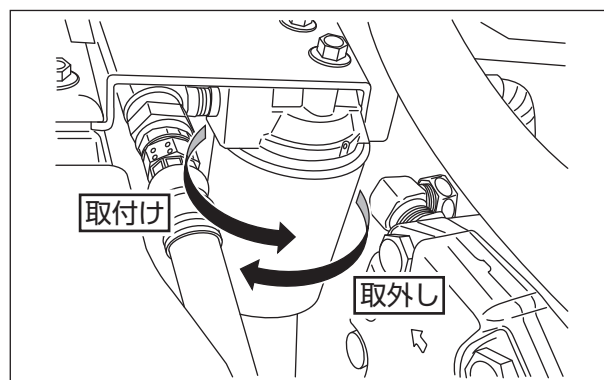
⚠ 注 意

- 油圧オイルが冷えてから作業をしてください。作業直後はオイルが高温になっており、火傷する恐れがあります。
- こぼれたオイルはウェスなどで拭き取ってください。火災の原因になります。

1. 油圧オイルドレーンプラグの下に排油用の受け皿を置きます。
2. ドレーンプラグゆっくりと緩め、油圧オイルを完全に排出します。



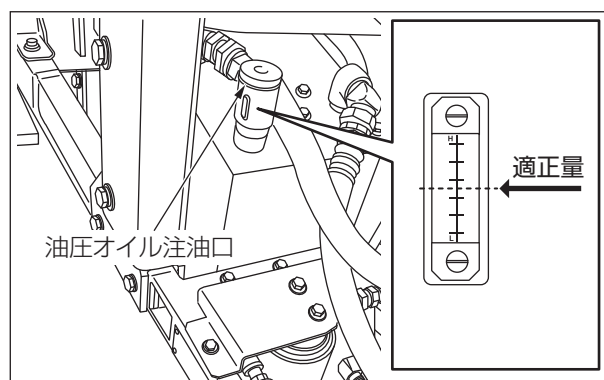
3. 油圧オイルフィルターを反時計方向に回して取外します。
4. 新しいフィルターの O リングに薄くオイルを塗布し、取り付けます。時計方向に手で回して締め付けます。
5. ドレーンプラグ、タンクのドレーン口を清掃し、プラグにシールテープを巻き直してから元通りに取り付け、既定のトルクで締め付けます。



油圧オイルドレーン プラグ締め付けトルク	132 N-m (kgf/m)
-------------------------	-----------------

6. 油圧オイル注油口から油圧オイルをゲージの中央付近まで注入します。

油圧オイル	ISO VG46#
-------	-----------



バッテリーの保守

⚠ 注 意

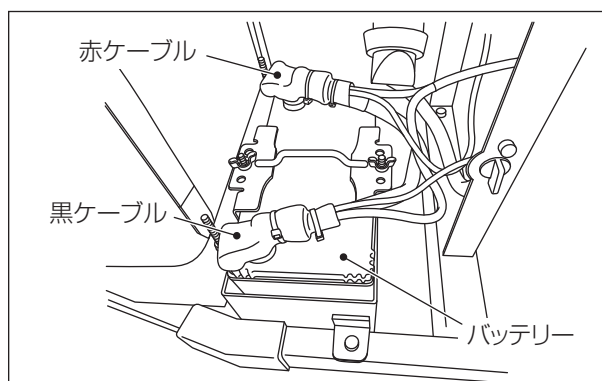
- ・バッテリーの点検はスターターキーを「OFF」にしてから行ってください。
- ・バッテリーを取外すときはマイナス端子（黒ケーブル）から外してください。取り付けるときはプラス端子（赤ケーブル）から取り付けてください。感電の恐れがあります。
- ・マイナス端子とプラス端子が接触しないように注意してください。金属パーツなどで短絡（ショート）させるとバッテリー損傷、感電の原因になります。

重 要

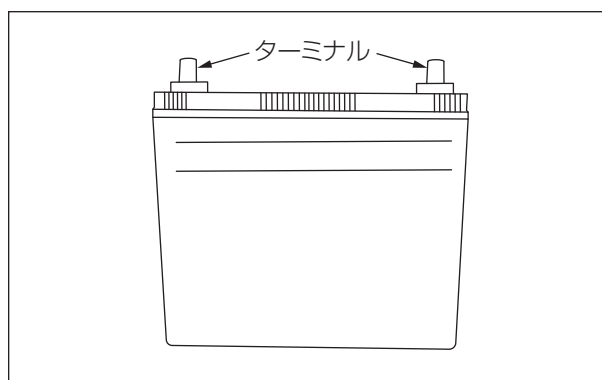
- ・バッテリーの取扱説明書をよく読み十分に理解してください。
- ・バッテリーの充電は充電器の取扱説明書の手順に従って行ってください。

- バッテリーの接続端子は常にきれいにしておきます。接続部にゆるみがあれば、締め付けます。接続部がゆるんでいると短絡したり、バッテリーの破損の原因になります。

- バッテリーの接続端子に結晶が付着しているときは、金ブラシなどで取り除いてください。



- ターミナルとバッテリーケーブル接続部の腐食の防止のために、シリコン誘電グリースを塗布しておきます。

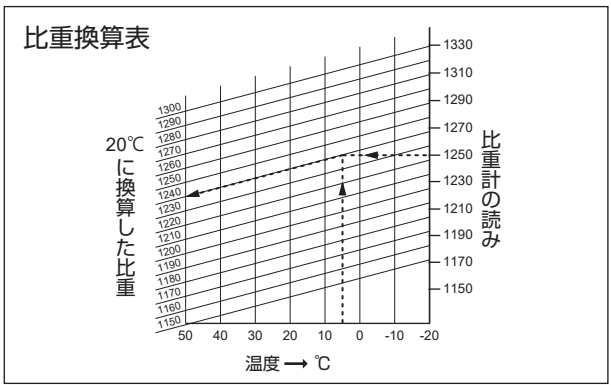


バッテリー液の比重の点検のしかた

1. 比重計でバッテリー液の比重を測定します。
2. 各セル間に比重にばらつきがある場合は、均等充電を行います。

バッテリー液温	比重値
20℃	1.260（適正）

3. バッテリー液が 20℃ 以外の場合は、比重換算表を参考に 20℃ における比重値に換算し、バッテリー液の比重の調整を行ってください。



例：バッテリー液温が 5℃ で比重計値が 1.250 の場合.....

比重換算表の 20℃ おける比重値に換算すると、1.240 となります。適正比重値より 0.020 低いことになるので、その分比重を上げます。

.....

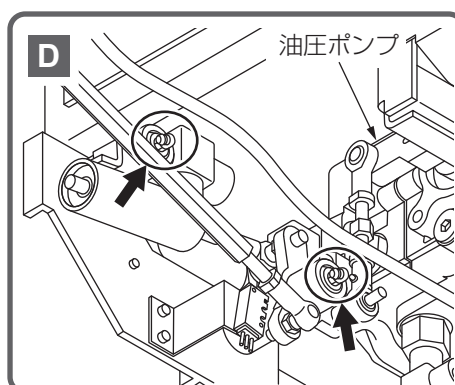
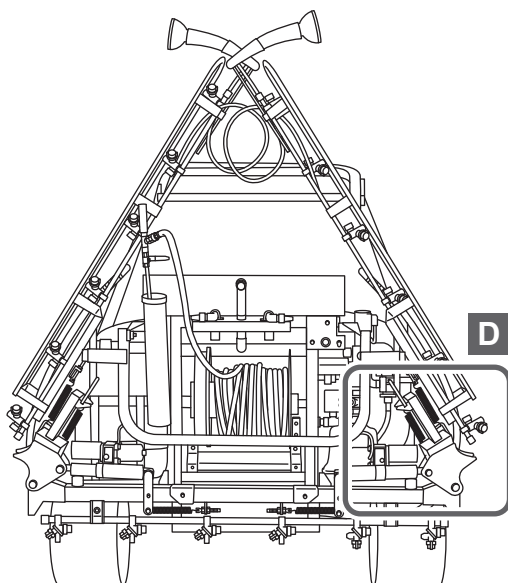
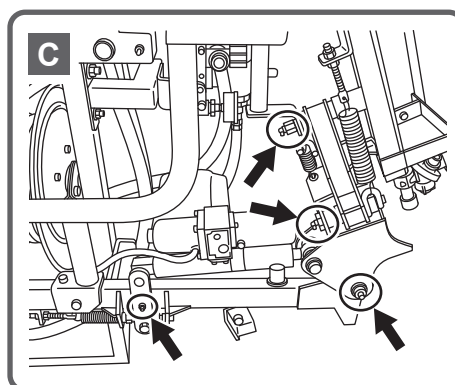
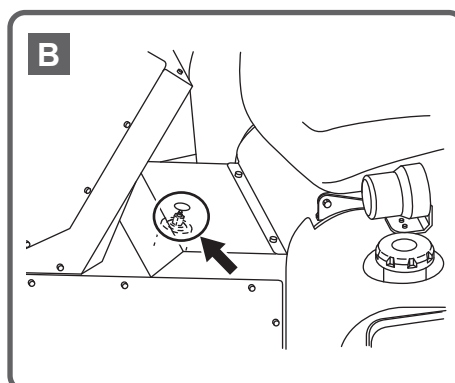
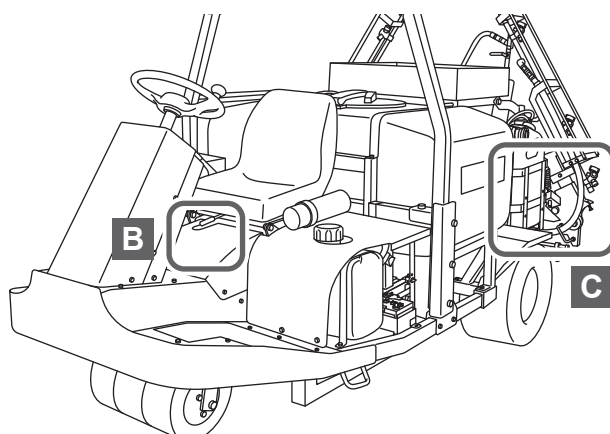
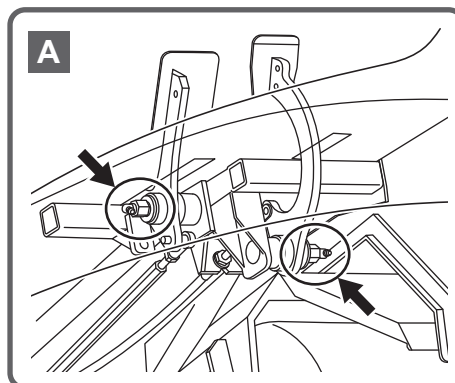
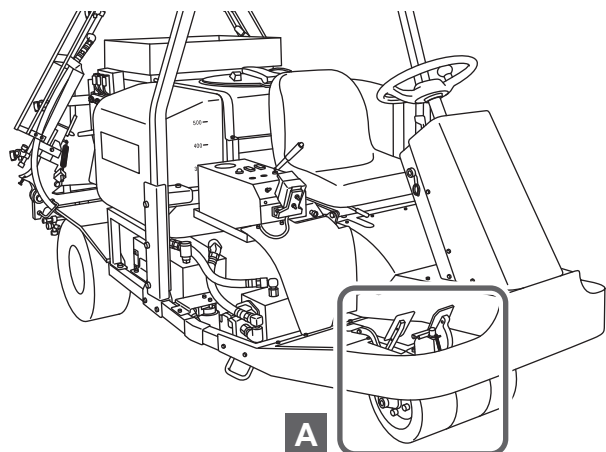
⚠ 注意

バッテリーの使用限界の比重値は 1.160 です。これ以下に絶対にしないでください。比重の低下が著しい極版、発電機などの点検を行ってください。

グリース給脂

点検時期：1 か月または 50 時間ごと

グリースフィッティングの周囲塵埃を取り除き、上質のグリースを十分に給脂します。給脂後、押出された古いグリースを拭き取ってください。



パーキングブレーキワイヤーの調整

パーキングワイヤーが伸びてパーキングブレーキレバーの引き幅が大きくなった時、ワイヤーの長さを調整します。

⚠ 警告

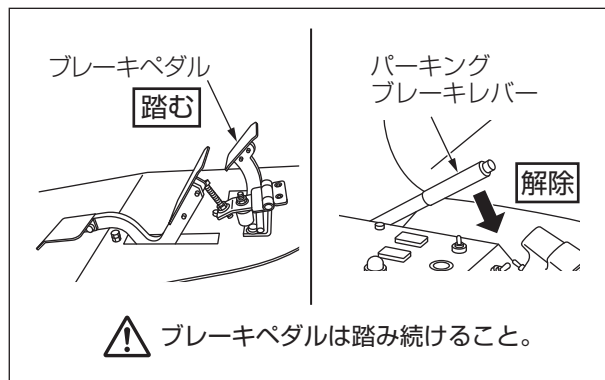
パーキングブレーキワイヤーの調整は、平坦な場所でエンジンを停止して行ってください。

調整のしかた

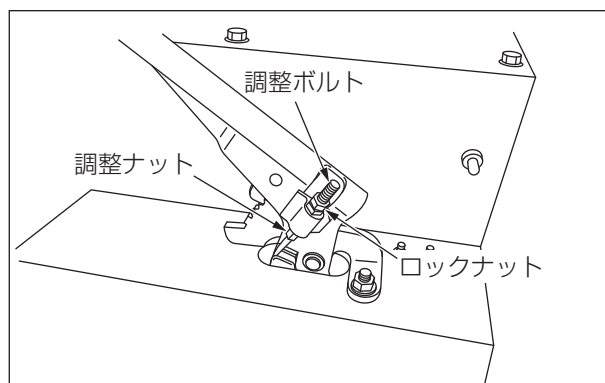
1. ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキレバーを解除します。

⚠ 注意

パーキングブレーキの調整中は、車両が動かないようにブレーキペダルを踏み続けてください。



2. ロックナット（W ナット）を緩めます。
3. 調整ナットを回して、ワイヤーの長さを調整します。調整ナットを時計方向に回すと、引き幅が狭くなります。
4. ワイヤーの調整が完了したら、ロックナットを締め付けます。

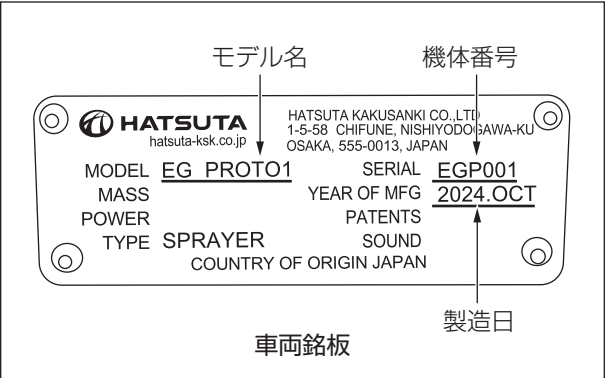


定期点検記録簿

定期点検の際はチェックした内容を「定期点検記録簿」に記録し、保管しておいてください。記録をとることとで車両を常に良い状態に保つ手助けとなります。

記録簿への記載のしかた

1. 車体左側フレーム下部にある銘板で、「モデル名」、「製造日」、「機体番号」を確認し、定期点検記録簿に記入します。
2. 実施する点検時期欄の「1・3・6・12」の数字に「○」をします。
3. 点検、整備結果を記入します。
4. 整備者の氏名、日付を記入します。
5. 整備の際に交換した主な部品や測定結果などを必要に応じて記事欄に記入します。



記載の概要

- 点検の結果、異常がなかった場合は結果欄に「✓」を記入します。
- 点検の結果、異常があった場合は下記表の整備作業区分にある記号を結果欄に記入します。
- 整備作業を重複して行った場合は表中の記載順位の最も高いものを記入します。
- 点検や整備が分解を伴うものであれば、結果欄に「○」を記入します。

チェック記号の記入順位

順位	作業区分	チェック記号	意味
1	交換	×	部品、油脂を交換した。
2	修理	△	損傷、破損箇所を修理した。
3	調整	A	性能、機能維持のため調整した。
4	増締	T	緩んだボルト、ナットを締めなおした。
5	清掃	C	汚れ、詰りなどを清掃した。
6	給油(脂)	L	性能、機能維持のため油脂類を補給した。
	点検	✓	点検結果、異常がなかった。

定期点検記録簿

モデル名		EG503		機体番号			
1・3・6・12		か月点検		製造日		年 月 日	
担当者				点検実施日		年 月 日	
点検項目		点検方法	結 果	点検項目		点検方法	結 果
エンジン	原動機のかかり具合・異音	目視・聴診		電気装置	バッテリーの液量、比重	目視・比重計	
	低速および加速の状態	操作			電気配線の接続のゆるみ・損傷	目視	
	排気の色・状態	目視		動力伝達装置		油圧ポンプの油漏れ	目視
	エアークリーナの汚れ	清掃・交換			油圧モーターの油漏れ	目視	
	燃料ホースの漏れ	目視			油圧ホースの油漏れ・損傷	目視	
	燃料フィルターのつまり	目視・清掃			油圧オイルの量・汚れ	目視	
	チョークの作動状態	操作			各部の油漏れ	目視	
	エンジンオイルの量・漏れ・汚れ	目視・交換					
走行・制動装置	走行ペダルの遊び	測定		散布装置	遠心ポンプの水漏れ	目視	
	走行ペダルの中立	操作			遠心ポンプ異音	聴診	
	ブレーキペダルの遊び	測定			タンク・配管の水漏れ	目視	
	パーキングブレーキの作動	操作			ストレーナー網の汚れ・損傷	目視	
	タイヤの摩耗・亀裂・損傷	目視			各部のゆるみ・がた	目視・感触	
	ホイールナットのゆるみ	目視			散布配管の汚れ	目視	
換向装置	ハンドルの遊び、がた	感触		その他	各部の給油脂状態	目視	
	走行、旋回性能	動作			取付部のボルト・ナットのゆるみ	目視・感触	
電気装置	点火プラグの状態	目視・交換				各接続ホースの損傷	目視
	点火時期	測定					
	トランジスタマグネットの状態	目視					
記 事							

点検	✓	修理	△	調整	A
交換	×	清掃	C	給油・給脂	L
増締	T	分解	○		

長期保管

一定の期間完全に運転を停止する長期保管をするときは、車体やエンジン、バッテリーに下記の処置を行ってください。保管処置後は車両に雨水・風のかからない場所で保管してください。

車体への処置

- タンク、散布配管内の水を完全に抜き取ります。
- 車体、タイヤに付着した・薬剤などを取り除きます。
- 塗装に剥がれがあれば、補修するか防錆オイルを塗っておきます。

エンジンへの処置

- 燃料コックを閉じて、エンジンが停止するまで運転します。
- 燃料タンクから燃料を抜き取り、燃料フィルターを清掃します。
- 新品のエンジンオイルに交換します。
- エンジンの外側を清掃して、塗装が剥がれている部分は補修するか、防錆オイルを塗っておいてください。

バッテリーへの処置

具体的な処置の方法はバッテリーメーカーの取扱いの指示に従ってください。

- バッテリーを車両から取り外します。
- バッテリーは立てた状態で冷暗所で保管します。

重 要
・周辺温度が 26.7℃以上の場所で保管すると、放電量が大幅に増加します。放電したバッテリーを -7℃以下で保管すると、バッテリー液が凍結します。 ・保管中のバッテリーは 60 日から 90 日の間隔で容量を点検し、必要があれば充電してください。

緊急時の処置

バッテリーが上がったときは

バッテリーが上がったときは、補助バッテリーで始動することができます。

補助バッテリーでの始動のしかた

1. 12V の電源を供給できる補助バッテリーを用意します。
2. ブースターケーブルを次の順序で接続します。
 - ①赤ケーブル(+)を車両バッテリーの+極へ
 - ②赤ケーブル(+)を補助バッテリーの+極へ
 - ③黒ケーブル(-)を補助バッテリーの-極へ
 - ④黒ケーブル(-)を車両バッテリーから離れたフレームなどへ接続します。(アースします。)
3. スタータースイッチを回し、エンジンを始動します。
4. エンジンが始動したら、ブースターケーブルを接続したときの逆の手順で取り外します。

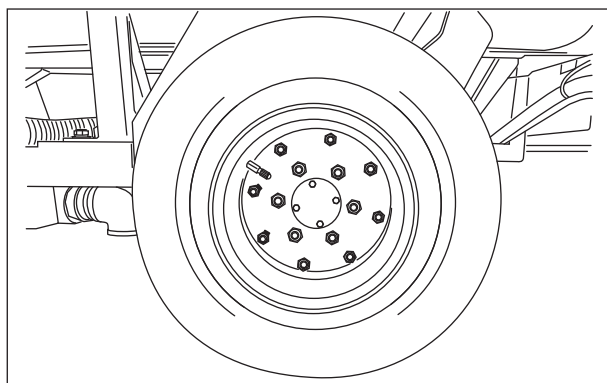
⚠ 注意

- ・スターターモーター回転中にブースターケーブルが動かないようにしてください。接続が緩んでスパークが発生する原因になります。
- ・ブースターケーブルの+極と-極は、絶対に接触させないでください。

パンクしたときは

後輪タイヤの交換のしかた

1. 平坦で堅牢な路面に停車させて、エンジンを停止します。タンク内の水を抜き取ります。
2. パーキングブレーキをかけて反対側の車輪に輪止めをします。ジャッキをフレーム下部にセットします。
3. タイヤが路面から離れない程度にジャッキアップしてナットを緩めます。このとき、ナットを取り外さないでください。
4. タイヤが完全に離れるまでジャッキアップして、ナットを取り外します。
5. タイヤをハブから取り外します。
6. 新しいタイヤまたは修理したタイヤを外した逆の手順で取り付けます。



⚠ 注意

ナットは必ず対角線に均等に、規定のトルクで締付けます。
ハブナット締付けトルク：85 N・m (kgf・m)

故障時の車両移動は

油圧ポンプなどの故障により、パーキングレバーを操作しても解除できない場合は、手でパーキングブレーキを解除することができます。

⚠ 警告

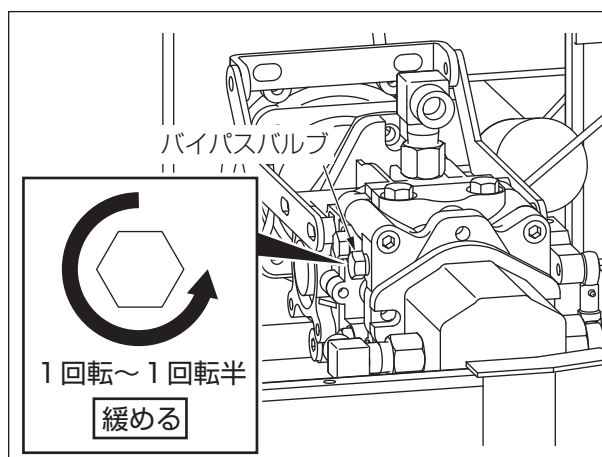
- パーキングブレーキの手動解除は、車両を緊急に移動させる場合にのみ行ってください。それ以外では絶対に行わないでください。
- 傾斜地での手動解除は行わないでください。解除するときは必ず輪止めをして、車両が動かないように固定してください。

パーキングブレーキ手動解除のしかた

1. スタータースイッチを「OFF」にし、パーキングブレーキを解除します。
2. 油圧ポンプのバイパスバルブを、反時計回りに1回転～1回転半緩めます。
3. 車両を平坦で安全な場所まで移動させます。移動後、バイパスバルブを閉じ、パーキングブレーキを作動させてください。

⚠ 注意

パーキングブレーキを手動解除して車両の移動が完了したら、直ちにパーキングを接続してください。

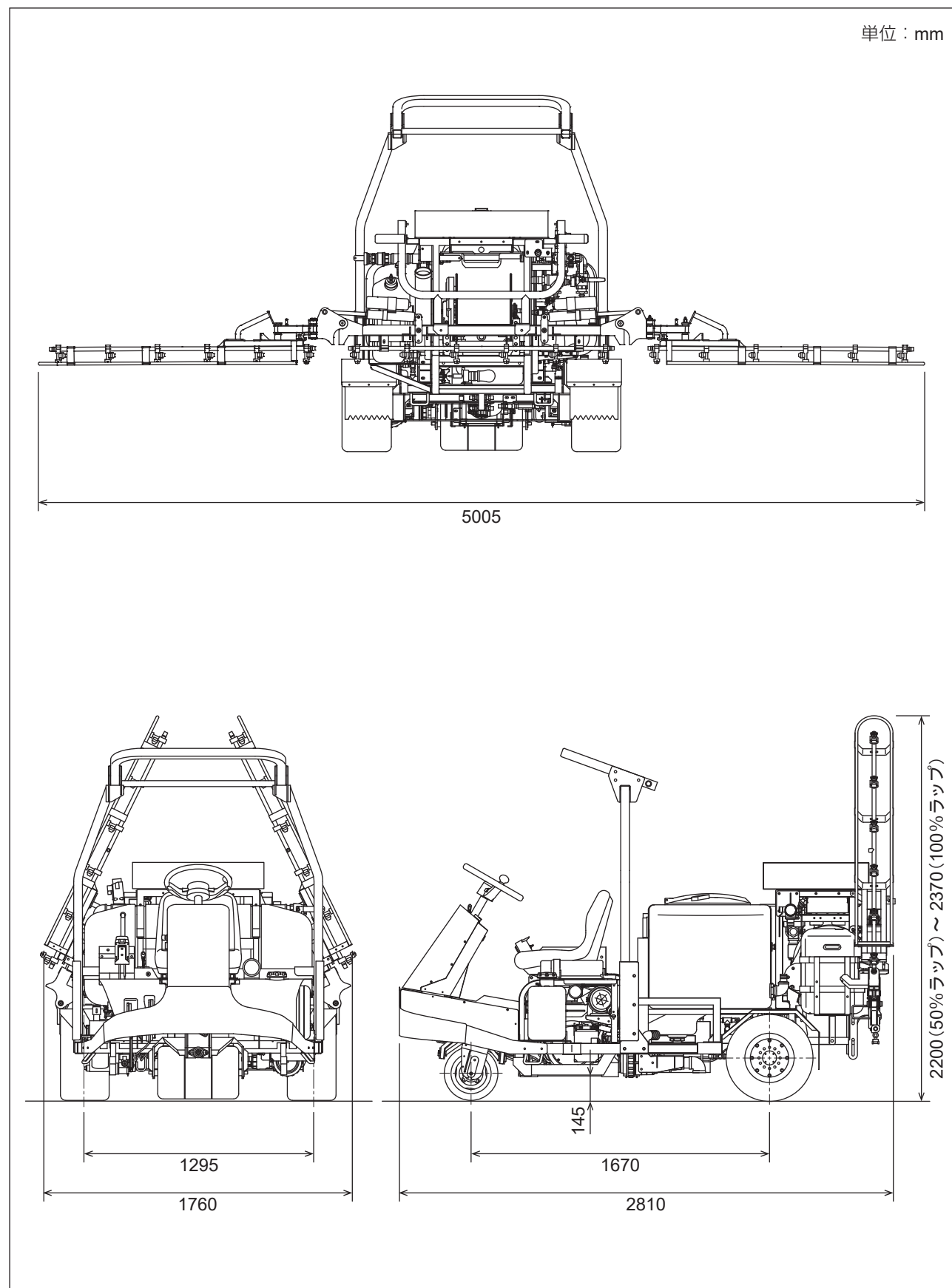


MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

仕様

外形寸法図



製品仕様は予告なく変更することがあります。

EG503

型 式				EG503
性 能	走行速度	無負荷	k/m	0 – 16
	登坂能力	無負荷時	°	20
	最大吐出量		L/min	190
寸 法	全 長		mm	2810
	全 幅	ブーム格納時	mm	1760
		ブーム展開時	mm	2510
	全 高	ブーム格納時	mm	2370 / 2200
		ブーム展開時	mm	1360 (2010)
	地上最低高		mm	145
	ホイールベース		mm	1300
	トレッド	後 輪	mm	1300
	最小回転半径		mm	2810
	乾燥重量		kg	790 (840)
機 関	名 称	HONDA		
	型 式	GX690		
	シリンダー数	2		
	総排気量	cc	688	
	最大出力	kw (HP)	16.5 (22.4)	
	始動方式	DC12V 電動スタータ		
	燃 料	無鉛レギュラーガソリン E0~E10		
駆動装置	変速機	HST		
	前 輪	ø300 × 150mm ウレタンタイヤ		
	後 輪	20 × 12.00-10		
散布装置	攪拌方式	水流攪拌式		
	ブームノズル形式	電動 18 頭口 (5.04m 3 分割)		
	ノズル	ダイヤフラムチェックバルブ付Tジェット		
	遠心ポンプ	型 式	セントリーヒューガルポンプ 9203S-HM1C	
		最大吐出量	L/min (MPa)	190 (0.6)
	タンク容量	L	500	
蓄 電 池	容 量	V/Ah	12 / 5	
油圧装置	油圧ポンプ	型 式	DDC24	
		高圧リリーフ圧	Mpa	21
	油圧モータ	型 式	MLHSLW200	
	作動油フィルター	形 式	スピンオンフィルター	
油 脂 類	エンジンオイル	銘 柄	SAE 10W-30 SE 級以上	
	エンジンオイル量	L	1.9 (交換時 1.5 / フィルタ込み 1.7)	
	作動油	銘 柄	ISO VG46 #	
	作動油タンク容量	L	30	
	点火プラグ	ZFR5F		

トラブルシューティング

症 状	原 因	処 置
エンジンが始動しない。	燃料がない。	燃料を補給する。
	不良な燃料を使用している。	燃料タンクを洗浄、清浄な燃料に交換する。
	燃料コックが閉まっている。	燃料コックを開ける。
	燃料フィルターが詰まっている。	燃料フィルターの清掃または交換する。
	点火プラグの火花が飛んでいない。	点火プラグを点検または交換する。
	点火プラグにカーボンが付着している。	点火プラグの電極を清掃する。
	点火プラグキャップの不良。	点火プラグキャップの締りを点検する。 点火プラグコードの断線の有無を点検点検する。
エンジンの回転数が上がらない。	アクセルワイヤーが固着またはワイヤーが伸びている。	アクセルワイヤーを交換または調整する。
	エアークリーナーが目詰まりしている。	エアークリーナーを清掃または交換する。
	不良な燃料を使用している。	清浄な燃料に交換する。
	燃料フィルターが詰まっている。	燃料フィルターを清掃または交換する。
セルスターターが回らない	スターターモーターが故障している。	スターターモーターを交換する。
	マグネットスイッチが故障している。	マグネットスイッチを交換する。
	バッテリーが上がっている。	バッテリーを充電または交換する。
走行しない。	サイドブレーキがかかっている。	サイドブレーキを解除する。
	走行モーター軸が破損している。	モーター軸の破損が推測される場合はすぐに使用を中止し、販売会社に修理を依頼する。
	アクセルペダルおよびプッシュブルケーブルの動作不良。	プッシュブルケーブルの点検または調整する。
		ペダルにグリスを給脂する。
		 警告 むやみにペダルを踏込むと急発進し、停車しない恐れがあります。
	油圧ポンプのダンパバルブが開いている。	ダンパバルブを締める。
サイドブレーキが効かない。	サイドブレーキワイヤーが固着または伸びている。	サイドブレーキワイヤーを調整または交換する。
	パーキングプレートが摩耗している。	販売会社に修理を依頼する。
タンク内の薬剤が攪拌できない。	エンジンが停止している。	エンジンを始動する。
	ジェットアジテータが目詰まりしている。	ジェットアジテータを清掃または交換する。
遠心ポンプより水漏れしている。	ポンプのインペラおよびポンプシールの不良。	インペラ、ポンプシールを交換する。
	ポンプが破損している。	ポンプを交換する。
手撒ホースから水（薬剤）が出ない。	エンジンが停止している。	エンジンを始動する。
	タンクに水が入っていない。	タンクに水を入れる。
	メインスイッチが OFF になっている。	メインスイッチを ON にする。
	ブーム・手撒き切換レバーがブーム側になっている。	ブーム・手撒き切換レバーを手撒き側にする。
	メンテナンスバルブが閉まっている	メンテナンスバルブを開ける
	スロットルレバーが低速になっている。	スロットルレバーを高速にする。
	ストレーナーが詰まっている	ストレーナーを清掃する。

症 状	原 因	処 置
手撒ホースを巻き取れない。	ホース巻取電源スイッチが OFF になっている。	ホース巻取電源スイッチを ON にする。
	バッテリーが上がっている。	バッテリーを充電または交換する。
	手撒ホースが引っ掛かっている。	ホースの絡み、引っ掛かりを解消する。
ブームから水（薬剤）が出ない。	エンジンが停止している。	エンジンを始動する。
	タンクに水が入っていない。	タンクに水を入れる。
	メインスイッチが OFF になっている。	メインスイッチを ON にする。
	メンテナンスバルブが閉まっている	メンテナンスバルブを開ける。
	ストレーナー・中間ストレーナーが詰まっている	ストレーナー・中間ストレーナーを清掃する。
	ブーム・手撒き切換レバーが手撒き側になっている。	ブーム・手撒き切換レバーをブーム側にする。
	スロットルレバーが低速になっている。	スロットルレバーを高速にする。
	ブーム配管やホースが詰まっている。	ブーム配管、ホースを清掃または交換する。
ブームの圧力が上がらない。	水量調整バルブが全開になっている。	圧力が上がるまで水量調整バルブを閉める。
	スロットルレバーが低速になっている。	スロットルレバーを高速にする。
	水量調整バルブの不良。	水量調整バルブを点検または修理する。
ブームから水が止まらない。	メインスイッチが ON になっている。	メインスイッチを OFF にする。
	水量調整バルブの不良。	水量調整バルブの点検または修理する。
	ノズルボディのダイヤフラムのパッキンが摩耗している。	ダイヤフラムのパッキンを交換する。
ブームが動作しない。	バッテリーが上がっている。	バッテリーを充電または交換する。
	ヒューズが断線している。	ヒューズを交換する。
	ブーム上下スイッチが故障している。	スイッチを交換する。
	ブームシリンダーの配線の接続不良。	配線を確認する。
	ブームシリンダーの不良	ブームシリンダーを交換する。
ブームの先端から水が漏れる。	ボディのダイヤフラムのキャップが緩んでいる。	ダイヤフラムのキャップを締める。
	ノズルボディのダイヤフラム不良。	ダイヤフラム、パッキンを清掃または交換する。
	ノズルボディが損傷している。	ノズルボディを交換する。
	ブームが損傷している。	ブームを交換する。
ブーム、手撒き時に圧力が上がらない。	中間ストレーナー、ホース類が目詰まりしている。	中間ストレーナー、ホース内部を点検する。 内部に水が入っている場合はメンテナンス コックを締めてから点検してください。

EG503 水量表ブーム散布表（圧損考慮）

速度 3 km/h

（単位：cc/m²）

サイズ	元圧力 (MPa)					
	0.25	0.3	0.35	0.4	0.45	0.5
8001	25.6	27.9	30.1	32.1	34.1	35.9
80015	38.3	42.1	45.5	48.6	51.5	54.3
8002	51.9	56.4	60.9	65.0	68.9	72.7
8003	75.4	82.9	89.7	96.1	102.1	107.7
8004	100.9	111.0	120.1	128.7	136.7	144.2
8005	123.2	135.9	147.6	158.4	168.5	178.0
8006	145.0	160.6	174.8	188.0	200.3	211.9
8008	184.3	206.0	225.7	243.8	260.6	276.4
8010	230.4	257.6	282.1	304.7	325.8	345.6
8015	299.0	345.3	386.0	422.9	456.7	488.3
8020	321.7	394.0	454.9	508.6		

速度 4 km/h

（単位：cc/m²）

サイズ	元圧力 (MPa)					
	0.25	0.3	0.35	0.4	0.45	0.5
8001	19.2	20.9	22.6	24.1	25.6	27.0
80015	28.7	31.6	34.1	36.4	38.6	40.7
8002	38.9	42.3	45.7	48.8	51.7	54.5
8003	56.5	62.2	67.3	72.1	76.6	80.8
8004	75.7	83.2	90.1	96.5	102.5	108.2
8005	92.4	102.0	110.7	118.8	126.3	133.5
8006	108.7	120.4	131.1	141.0	150.2	158.9
8008	138.2	154.5	169.3	182.8	195.5	207.3
8010	172.8	193.2	211.6	228.6	244.3	259.2
8015	224.3	258.9	289.5	317.1	342.6	366.2
8020	241.2	295.5	341.2	381.4		

速度 5 km/h

（単位：cc/m²）

サイズ	元圧力 (MPa)					
	0.25	0.3	0.35	0.4	0.45	0.5
8001	15.3	16.7	18.1	19.3	20.5	21.6
80015	23.0	25.3	27.3	29.1	30.9	32.6
8002	31.1	33.9	36.6	39.0	41.4	43.6
8003	45.2	49.7	53.8	57.7	61.2	64.6
8004	60.6	66.6	72.1	77.2	82.0	86.5
8005	73.9	81.6	88.5	95.0	101.1	106.8
8006	87.0	96.4	104.9	112.8	120.2	127.1
8008	110.6	123.6	135.4	146.3	156.4	165.9
8010	138.2	154.5	169.3	182.8	195.5	207.3
8015	179.4	207.2	231.6	253.7	274.0	293.0
8020	193.0	236.4	272.9	305.2		

速度 6 km/h

(単位 : cc/m²)

サイズ	元圧力 (MPa)					
	0.25	0.3	0.35	0.4	0.45	0.5
8001	12.8	13.9	15.0	16.1	17.0	18.0
80015	19.2	21.1	22.8	24.3	25.8	27.2
8002	26.0	28.2	30.5	32.5	34.5	36.3
8003	37.7	41.4	44.9	48.1	51.0	53.9
8004	50.5	55.5	60.1	64.3	68.3	72.1
8005	61.6	68.0	73.8	79.2	84.2	89.0
8006	72.5	80.3	87.4	94.0	100.2	105.9
8008	92.1	103.0	112.9	121.9	130.3	138.2
8010	115.2	128.8	141.1	152.4	162.9	172.8
8015	149.5	172.6	193.0	211.4	228.4	244.1
8020	160.8	197.0	227.5	254.3		

速度 7 km/h

(単位 : cc/m²)

サイズ	元圧力 (MPa)					
	0.25	0.3	0.35	0.4	0.45	0.5
8001	11.0	11.9	12.9	13.8	14.6	15.4
80015	16.4	18.1	19.5	20.8	22.1	23.3
8002	22.2	24.2	26.1	27.9	29.5	31.1
8003	32.3	35.5	38.5	41.2	43.7	46.2
8004	43.3	47.6	51.5	55.1	58.6	61.8
8005	52.8	58.3	63.2	67.9	72.2	76.3
8006	62.1	68.8	74.9	80.6	85.8	90.8
8008	79.0	88.3	96.7	104.5	111.7	118.5
8010	98.7	110.4	120.9	130.6	139.6	148.1
8015	128.1	148.0	165.4	181.2	195.7	209.3
8020	137.9	168.8	195.0	218.0		

速度 8 km/h

(単位 : cc/m²)

サイズ	元圧力 (MPa)					
	0.25	0.3	0.35	0.4	0.45	0.5
8001	9.6	10.4	11.3	12.1	12.8	13.5
80015	14.4	15.8	17.1	18.2	19.3	20.4
8002	19.5	21.2	22.9	24.4	25.9	27.3
8003	28.3	31.1	33.6	36.0	38.3	40.4
8004	37.9	41.6	45.1	48.3	51.3	54.1
8005	46.2	51.0	55.3	59.4	63.2	66.7
8006	54.4	60.2	65.6	70.5	75.1	79.5
8008	69.1	77.3	84.6	91.4	97.7	103.7
8010	86.4	96.6	105.8	114.3	122.2	129.6
8015	112.1	129.5	144.8	158.6	171.3	183.1
8020	120.6	147.7	170.6	190.7		

EG503 WF, BF 散布表（圧損考慮）

EG502 ワイドフラットノズル K120

（単位：cc/m²）

有効散布幅 (m)	先端圧 (MPa)	速度 (km/h)				
		3.0	5.0	6.0	7.0	8.0
5	0.4	217.8	130.7	108.9	93.3	81.7
	0.5	266.7	160.0	133.4	114.3	100.0
	0.6	308.0	184.8	154.0	132.0	115.5
	0.7	323.0	193.8	161.5	138.4	121.1
	0.8	344.4	206.6	172.2	147.6	129.1

EG503 ブームレスフラットファンノズル XT080

（単位：cc/m²）

有効散布幅 (m)	先端圧 (MPa)	速度 (km/h)				
		3.0	5.0	6.0	7.0	8.0
8	0.2	111.7	67.0	55.9	47.9	41.9
	0.25	118.9	71.4	59.5	51.0	44.6
9	0.3	114.7	68.8	57.3	49.1	43.0
	0.35	128.2	76.9	64.1	54.9	48.1
10	0.4	126.4	75.8	63.2	54.2	47.4
	0.45	136.5	81.9	68.3	58.5	51.2
11	0.5	132.7	79.6	66.3	56.9	49.8
	0.55	136.0	81.6	68.0	58.3	51.0
	0.6	148.3	89.0	74.2	63.6	55.6



2026 年 4 月 新版

初田拡撒機株式会社

〒 555-0013 大阪市西淀川区千舟 1-5-58

hatsuta-ksk.co.jp